

世界の婦人目次

(一)	娘一人に婿四百人	1
(二)	一船の乗組員皆女子	1
(三)	女子株式會社社長	1
(四)	女天國	1
(五)	富籤の花嫁	1
(六)	英國婚姻專門學校	1
(七)	十九年間に三十七人の子供	1
(八)	子福者婦人離婚を請求す	1
(九)	失戀俱樂部	1
(一〇)	夫の名を忘れし細君	1
(一一)	故李中堂の未亡人	1
(一二)	英國皇后の書翰	1
(一三)	英國婦人噫の競争	1
(一四)	少女接吻の價一萬弗	1
(一五)	夫婦にして顔を見能はざる奇習	1
(一六)	巴里婦人の日本服	1
(一七)	伯林女子の不幸	1
(一八)	ニューギニヤ女子の分娩	1

目次

明治 87 1 内交

目 次

(一九) 淑女謝禮を忘る.....一九七

(二〇) 暹羅婦人の散髪男裝.....一九九

(二一) 婦人頭髪賣買.....二〇〇

(二二) 指輪のはめ方.....二〇一

(二三) 十八歳の少女市長となる.....二〇二

(二四) 布哇土人の結婚.....二〇三

(二五) 電話交換手の損害要求.....二〇四

(二六) 露國の婦人旅館.....二〇五

(二七) 婦人に對する奇なる慈善事業.....二〇六

(二八) 箱の中の新婚旅行.....二〇七

(二九) 露國皇后陛下の化粧費.....二〇八

(三〇) 露國政府金銀婚者に金牌を興ふ.....二〇九

(三一) 露國の乳母.....二一〇

(三二) 美人競争勝利者.....二一一

(三三) 米國婦人の涙競争.....二一二

(三四) 支那の泣女.....二一三

(三五) 佛蘭西の寡婦と煙草店.....二一四

(三六) カイロ府婚姻招待.....二一五

(三七) 女子身長程度.....二一六

(三八) 獨逸の不釣合の夫婦.....二一七

(三九) 諸國女皇の體格.....二一八

(四〇) 不釣合ひの兩陛下.....二一九

(四一) 最矮小の婦人.....二二〇

(四二) 珍無類の小女.....二二一

(四三) 露國內に於ける婦人.....二二二

(四四) 貴婦人の愛犬.....二二三

(四五) 米國婦人と犬の盛葬.....二二四

(四六) 小供の夫婦.....二二五

(四七) 九歳の少女結婚す.....二二六

(四八) 朝鮮人の婚姻.....二二七

(四九) 各國婚姻年齢.....二二八

(五〇) 一回の接吻二百餘人を殺す.....二二九

(五一) 接吻利用の窃盜.....二三〇

(五二) 非接吻同盟會.....二三一

(五三) 接吻の種類と其研究家.....二三二

(五四) 墨西哥の神女.....二三三

(五五) 孟買の斷食女.....二三四

(五六) 印度婦人のお黒い.....二三五

(五七) 老婦人の若返り.....二三六

(五八) 菌好きの下女入用.....二三七

世 界 の 婦 人

(五九)	下女出世して皇后となる.....	五〇
(六〇)	朝鮮婦人と妓生學校.....	五〇
(六一)	朝鮮婦人の愛情.....	五一
(六二)	コザック婦人良人を養ふ.....	五一
(六三)	キルギス人と妻女のテント.....	五三
(六四)	キルギス人女子の待遇.....	五四
(六五)	西藏の夫婦制度.....	五六
(六六)	多藝なる女王.....	五六
(六七)	歐洲女王中の美人.....	五七
(六八)	アヒシニヤ女王の勇武.....	五八
(六九)	看護婦は皇太妃殿下.....	五九
(七〇)	列國皇后御嗜好一斑.....	六〇
(七一)	臺灣土匪中の紅裙軍.....	六一
(七二)	臺灣の妖婆.....	六一
(七三)	英佛獨人の女性觀.....	六二
(七四)	歐米婦人の好む良人.....	六三
(七五)	文明各國婦人の化粧時間.....	六三
(七六)	歐米婦人の爪磨.....	六四
(七七)	歐洲貴婦人と自製の靴足袋.....	六五
(七八)	マーシヤル群島男女の關係.....	六六

目次

四

世 界 の 婦 人

(七九)	臺灣の羽子突き.....	六八
(八〇)	自國語を解せざる女王.....	六八
(八一)	米國女學生と一日十錢の食事.....	六九
(八二)	禁酒に熱中せる婦人.....	七〇
(八三)	タオルの洗濯競争.....	七〇
(八四)	男子の生活を爲したる女子.....	七一
(八五)	我國に於ける求婚廣告の始.....	七一
(八六)	深夜に結婚の流行.....	七二
(八七)	幸運なる一少女.....	七三
(八八)	米國女子一般の傾向.....	七三
(八九)	流車に乗らざる婦人.....	七四
(九〇)	妻を毆打したるものゝ處刑.....	七五
(九一)	佛國の針喰ひ娘.....	七六
(九二)	婦人の胃中に五年間蛙住む.....	七六
(九三)	獅子の檻内にて結婚す.....	七八
(九四)	蓄音機を用ひて結婚.....	八〇
(九五)	結婚上の奇風.....	八一
(九六)	米國婦人の脱帽.....	八二
(九七)	支那婦人の畸足.....	八二
(九八)	上流社會の支那婦人.....	八三

目次

五

人 婦 の 界 世

(一九九)	支那婦人の小便洗濯	八四
(二〇〇)	支那婦人の放屁	八五
(二〇一)	入浴の種類	八五
(二〇二)	女子新聞記者學校	八六
(二〇三)	婦人記者排斥運動	八七
(二〇四)	華盛頓の婦人官吏	八七
(二〇五)	幸滿西國の女鐵道員	八八
(二〇六)	アルシヤ諸島の女子風俗	八九
(二〇七)	フィリッピン群島の風俗	九〇
(二〇八)	比翼連理の老夫婦	九〇
(二〇九)	世界を濶歩する婦人	九一
(二一〇)	佛國少女の世界無錢旅行	九一
(二一一)	女子の大學教授	九二
(二一二)	伯爵を得むが爲めの結婚	九二
(二一三)	美人の乳房	九四
(二一四)	露國婦人の禁酒運動	九四
(二一五)	紐育の婦人と擊劍の流行	九五
(二一六)	一婦人ナイヤガラ瀑布を下る	九五
(二一七)	女學生の密輸入	九六
(二一八)	米國婦人のダイヤモンド狂	九八

目次

六

人 婦 の 界 世

(二一九)	世界第一の富豪後家	九九
(二二〇)	日本女子と買物	九九
(二二一)	米國の禿頭俱樂部	〇一
(二二二)	倫敦女子の游泳	〇一
(二二三)	埃及の女子教育	〇二
(二二四)	米國の下女同盟會	〇二
(二二五)	ルーマニアの下女	〇三
(二二六)	伊國女子雜誌記者を訴ふ	〇四
(二二七)	日本に於ける女醫の開祖	〇四
(二二八)	巴里大博覽會は縁結びの神	〇五
(二二九)	歐洲横肥り婦人の食物	〇六
(二三〇)	瑞典の女子選舉權	〇七
(二三一)	風變はりの粧飾は一命に關す	〇七
(二三二)	米國男女の最高齡者	〇八
(二三三)	亭主の髻を引張りて離縁	〇九
(二三四)	婦人の鬢髪長さ六呎	〇〇
(二三五)	布哇士人女子の舞蹈	〇〇
(二三六)	金満家の娘泥棒病氣	〇一
(二三七)	歐米人夫婦の歩行	〇二
(二三八)	四十五歳以上の婦人結婚禁止法案	〇四

目次

七

(一三九)	未婚女子の男子生捕會	一六
(一四〇)	警視廳管内の女工數	一七
(一四一)	米國婦人皮膚に寫眞す	一八
(一四二)	大口の女	一九
(一四三)	即座に約を整へて結婚す	一九
(一四四)	健忘性の女子	二〇
(一四五)	郵税免除の米國婦人	二一
(一四六)	高山に登ぼるを好む處女	二二
(一四七)	女囚の手足は大なり	二三
(一四八)	英國に於ける妻の賣買	二三
(一四九)	佛國の舞蹈と博奕	二五
(一五〇)	瀛車の危険を防ぐ一婦人の名案	二六

世界の婦人目次終

櫻 東 女 史 編

娘一人婿四百人

世界の婦人

拜金專門の米國は相應はしき話こそあれ、紐育にカリイ、ヂッケンス

と稱する妙齡十七歳花の如き少女ありけるが、此娘先頃六十萬弗の

財産を相続することとなりたり、此話の一度び世間に傳はるや、慾

に眼のなき米國人、殊更美人との評判さへ聞へければ、浮れ男の子

我れも我れもと求婚の申込みするもの引きも切らず、毎朝此娘の接

手する艶書は束を爲し、殆むと四百通の多きに上げれり、然るに娘

は一向平氣な者にて世間の男程馬鹿な事をする者は莫し、如何に千

娘一人婿四百人

一船の乗組員皆女子
東の艶書を寄せ來るとも、自分には疾くより二世懸けて契ざりたる
意中の人あれば、是等の艶書も屑紙同様なり、纏がて六十萬弗の財
産を得たらんには、早速其人と天下晴れて夫と喚び妻と呼ばれて是
れ見よがしに振舞ひ、四百餘人の馬鹿男に鼻明かせてやらんと云ひ
居りたる由、今頃は定めて四百餘人が指を喰へて羨ましげに、新夫
婦の前途を呪ひ居るならん

(三) 一船の乗組員皆女子

近來西洋諸國に於て女子職業の範圍非常に擴張されつゝあるは世人
の知る所なれども、航海業に迄で其手を延ばし來りたる事實を聞け
ば、有髯男子も閉口せざるを得ざるべし、先頃アレキサンドリア港
より、米國フレデルフイヤに入港したる、濠州の一氣船ゾラ號は、

一船の乗組員皆女子にして、上は船長より下は給仕人に至る迄で、
細腰雪肌の優さ姿にて萬里の鯨濤を蹴破り、天晴れ高等海員たるの
技倆資格を現はしたりと云ふ、男性の水夫時代は去りて女性の水夫
時代來らんとするもの乎

(三) 女子の株式會社々長

匈牙利のエルラウと稱する市にて、近頃去る大株式會社の社長とし
てアレキサンドルダプヘルトなる婦人選任されたりと云ふ、婦人の
株式會社々長は歐米にても此婦人が嚆矢なるべし

(四) 女天國

百年の苦樂他人に依るとか、三界に家なしとかは開けぬ昔の女子の

女子の株式會社々長 女天國

述懐にこそ、今の世の婦人達若し女子の権利やら、氣随氣儘やらを、自由自在に振舞はさんとせば、宜ろしく亞弗利加アビシニヤに行くべし、是國こそ世界唯一の女天下國なり、即ちアビシニヤに於ては、法律を以て家屋財産は總て妻君の所有たることを認定し、若し良人たる者其の妻君を侮辱することありたる場合には、妻君は直ちに良人を放逐するを得、但し良人が罪を悔ひ改め、牝牛一頭或は半匹の駱駝を贈ふ時は、妻君に於て其罪を許るし遣るを常とす、然るに妻君の良人を侮辱するは實に妻君の權利にして、亦た其を離縁せんと欲せば、自分の都合次第何時にても放逐し得るとなり、山の神、鼻左衛門の威光も亦た盛なりと謂ふべし

(五) 富籤の花嫁

いづれ菖蒲と引きぞ煩ふの夫れならで、富籤を以て花嫁を得る奇風露國スモレンスクに行はる、同所に於ては一年四回宛花嫁の富籤を賣り出し居れり、此富籤一枚の價は僅に一留、即ち我國の約一圓にして、五千枚を一口とするの規定なり、而して其方法は嫁入盛りの一一人の娘容顔の美るはしきを選びて之れを賭物とし、籤の賣揚高を持參金として悉皆娘に與へ、富籤の男此娘と結婚するにあり、又當り籤の男子は此娘を引受くるの義務あれども、若し美人其男に嫁するを好まざる時は、半金即ち二千五百留を其男子に與へて一身の自由を得るなり、此富籤行はるゝに及んで身の幸福を得むと願ふ女子は、續々申込むに依り毎回の美人數百人に上げると云ふ

(六) 英國婚姻專門學校

英國婚姻專門學校

十九年間に三十七人の子供

六

婚姻媒介所なるものは珍らしからねども、婚姻専門學校とは是れが初てなるべし、英國チエルシーにて昨年婚姻學校設立の計畫ありたり、其教授の課目は割烹給仕洗濯等より、凡そ家婦として必要なる課目は何れとなく教授し、其外に體育の科を加へ、藥劑學生理學なども其一斑を教へ、修業年限は二ヶ年なる由、其後果たして設立されたるや否やを知らず

(七) 十九年間に三十七人の子供

生殖制限なむと唱ふる社會論者とやらんには、無論大眼玉を頂戴すべきも、子福者と云へば亦た寶持ちの如くにも思はるゝ人もあり、澳大利の一農夫エハン、ユテイナト云ふ漢子、今より廿一年前、即ち本人五十二歳、我邦で云へば老爺株の年配の折、當時廿五歳な

りしマーサと呼べる婦人と結婚したるに、イヤ産みも産むだ、結婚後十九年間にマーサは三ツ子を産みしこと三回、ニタ子を産みしこと十二回、一兒宛産みしこと四回、合計三十七人を産みたり、而して其三十七番の子供は、父親ステイナ一の第七十二回目の誕生日に生れたるなりと云ふに、其容貌風采體格毫も普通人と異なる處なし、又た父親ステイナ一は七十四歳の高齡なるにも拘はらず、今尙は鏗鏘として生存せりと云ふ、目出度き話なれども其日暮らしの貧乏人には却て憂き事なるべし

(八) 子福者婦人離婚を請求す

前項の子福者夫婦は友白髮迄で添ひ遂げ得たるに、茲に又た子澤山故に離婚を請求するに至れる婦人あり、世は様々のもの哉、米國シ

子福者婦人離婚を請求す

七

カゴ市にオームスピーと云へる人あり、ジョセフヒンとなん云へる婦人を娶りしは今より七年前の事にて、階老の契りいと濃やかに、餘所の見る眼も羨ましさ程なりしが、婚姻せし其年より妻は懐妊し、今日迄七年に二タ子を産めると二度、三ツ子を産めると一度、四ツ子を産めると一度、一人宛産めると三度、都合十四人の子福者となり、斯く際限なく産むに於ては結局自己の幸福を失ふものと考へ、夫に對して離婚の請求訴訟を起したりと云ふ色消しな話と云ふべし

(九) 失戀俱樂部

獨逸國サクセマイニングのシユハイナに於ては、情事に不運なる老嬢少嬢相聚まり、一の俱樂部を組織し、其名を失戀俱樂部と稱し、

同病相憐むの意より互に交はりを訂たし、好みを結び、愛さを語り、愁を慰むと云ふ、日本ならば差し詰め姥捨山と云ふ處ならむ、同俱樂部の會長は三度離婚されたる一婦人なる由、秋の夜永に此俱樂部員の述懐談を聴きなば、定めし詩趣に富みたる小説の材料と爲るべき者多かるべし

(一〇) 夫の名を忘れし細君

轉宅の際自分の細君を置き忘れたる者ありとは、支那の昔の話なれど、是れは自分の良人の姓名を忘れし粗忽女なり、米國シカゴのメーリー、ベスキングと呼べる一婦人は、先頃或る男子と結婚し、十日程経て良人が勤務に出で行きし跡にて、縁組の趣きを遠方なる母親に文して知らせんと筆取りたるに、不圖良人の姓名を打ち忘れ、如

夫の名を忘れし細君

故李中堂の未亡人
何程考へしも思ひ出さざるより、已むを得ず市役所に出頭の上、戸籍掛りに就て取調べ、漸やく其の姓名のヴァイト、シヴェルロなる事を知り、今度は失念せぬ様にと態々其名を手帳に認めて歸宅したりと云ふ、随分善忘の婦人なる哉

(二) 故李中堂の未亡人

東洋の豪傑四百餘州の大人物として、名聲世界に轟きたる故李鴻章は、曾に支那政府の代表者として高名なりしのみならず、又た其所に於ても優に世界的富豪として幕の内に入列するを得べし、扱て其未亡人は非常な贅澤家にして、日常生活の有様を聞けば、金玉食を以て誇る歐米貴婦人も亦た一步を譲らざるを得ざるべし、同未亡人は既に六十歳を超へたる老嫗なるに拘はらず、天性の麗質

にや、將た其裝飾に萬金を費やして粧ふ故にや、外見は三十歳前後と外は見へず、而して其邸宅の輪奐壯麗を極むるは云ふ迄でもなく、其身邊は常に各種の珍禽孔雀、鴛鴦、鸚鵡、其他の山禽水鳥を以て圍繞され、童僕侍婢凡そ一百人、二六時中未亡人の願使に従ふて進退し居れり、未亡人は非常なる衣裳持ちにて、一度び邸内の衣裳蔵に入れれば、歐洲各國の皇后宮嬪すら容易に観るを得ざる様なる美服佳装は、幾百個の筐に藏めて積み重ねられ、最上最美の絹を以て製したる上衣二千領、袴千二百餘、最も美はしき毛皮を以て製したる革裘五百餘を藏せりと云ふ

(二) 英國皇后の書翰

故ヴクトリヤ女皇陛下の宸翰認めらるゝに勉めさせ給ひしは世人の

知る所なるが、現皇后アレキサンドラ陛下も又た極めて堪能なる書翰書きにおはし、時としては一日四十通の書翰を親裁し給ふことあり、陛下寵愛の侍臣ノリス嬢は、陛下監督の下に一日百通の書翰を認むるごありと、英國女后は代々書翰書きの達人と申すべし

(二三) 英國婦人の噓の競争

競争の詮議も噓と云ふに至りては少々お座の醒むるを覺ゆ、右は數年前英國ランカシヤイアの或る町に催ふされたる頗狂會なり、其目的は成るべく多數の噓を爲し得たる者に賞與を與ふる仕組にして、噓を起らすに足る刺戟物は何種を論せず使用するを許るし、特に上等に刻みたる喫煙草は場内に用意しありたり、當日噓に加はりたる婦人は五六十歳を超へたる老婦人六名にて、競争開始の合圖あるや

否や、競争者は有ゆる手段を以てクシヤミを爲し、其様實に抱腹すべき程なりしは勿論にて、其中の一婦人は我れチャンピオンたらんと、躍起となりてクシヤミを連發したるに、終には之れが爲めに眩暈を感じて卒倒するに至りたるが、其熱心なりし丈けクシヤミも亦た他婦人よりも多數にて、遂に首尾能くチャンピオンとして定められたる賞品を授けられたりと云ふ

(一四) 少女接吻の價一萬弗

昨年の事なりき米國クレメンシヤ市某家の愛娘子ルソンと呼べる十六歳の少女、一日夕飯を終はりナイフを洗はんとて點燈せざりし庖厨に入りたるに、何者か突然其の頸に抱き付き右の頬に接吻したり、娘は吃驚仰天して室外に逃げ出でたれど、之れが爲め痛く腦を刺戟

夫婦にして顔を見能はざる奇習
十四
して病の床に就きたり、家人は驚き慌て醫師の診断を求めたるに、到底満足には全快すまじとの事なりしかば、此悪巫山戯を爲したる馬鹿者を詮索したるに、一ヶ月前に此の家に雇はれたるシーンコツホと云ふ者なると知れたるに依り、遂に裁判所に向ふて一萬弗の損害賠償の訴へを提起したりと云ふ

(一五) 夫婦にして顔を見能はざる奇習

夫婦の間に於て其顔を見るを得ざる奇習は現に土耳其に行はる、土耳其人は平素妻の顔を見るを能はず、若し其顔を見むとせば覆面の上より窺かにぬすみ見るか、或は黒闇々の中にあらざれば見ると能はず、又た亞弗利加土人の一種風中にも此の奇習あり、此種風は夫婦別居し決して同棲せず、夫は唯だ暗夜妻の住所を訪問するのみ、

其他フタと稱する地方に於ては、結婚後三年間は妻たる者必ず覆面を被り、其顔を夫に見せざるの習慣ありと云ふ

(一六) 巴里婦人の日本服

日本女優として巴里交際社會に持囃され、彼處の夜會此處の婦人俱樂部より毎度招待されし貞奴は、夫川上晋次郎の意見に依り、我國の美術的なる婦人服装を彼土に紹介せんにとつとめ、平素裾模様紋附白襟に綿襦の九帯を結び、處々方々の會場に赴きしが、貞奴の道成寺に驚嘆を禁せざりし彼土の貴婦人連は、其の華麗優美なる服装に一層随喜渴仰の念に堪へず、何が扱て流行熱の中心たる巴里の事とて、貴婦人等は貞奴の服装を手本に、和洋折衷の夜會服を作り「ヤッコ服」と稱して之れを纏ひ、流行の魁を爲しつゝありと云ふ、衣

伯林女子の不幸 十六
服の地は勉めて日本の織物殊に西陣又は縮緬の類を用ひ、成るべく華美一式に製し上ぐる由

(一七) 伯林女子の不幸

獨逸國伯林に於ては男女の數、平衡を得ず、住民二百萬人内男子は其十分の四、即ち八十萬人程にして、女子は百二十萬人なり、今ま假りに八十萬の男子と八十萬の女子と配偶すとすも、尙ほ四十萬の女子は賣れ残りとして生涯所天を得ず、寡居獨棲に過さざるべからず、故に伯林婦人は豫め此の賣れ残りに備ふる用心として、身に一藝を習得し以て獨立生活の覺悟を爲すと云ふ、此の故にや伯林人口二百萬人の一割、即ち二十萬人は賣春婦にして斷へず市中を徘徊し居る由、伯林婦人の不幸亦た憫むべきにあらずや

(一八) ニューギニヤ女子の分娩

ニューギニヤには英獨其他の白人入り込み居れど、其土人は尙ほ野蠻の狀態を改めず、種々怪奇なる風習を有せり、就中土人女子の分娩は最も奇なる風習を帯び居れり、同島女子は分娩する時、他人に目撃せらるゝを忌むと甚だしく、愈よお産と云ふ時は、只だ一人山中に隠れて分娩し、自から其赤兒を抱きて歸り來ると云ふ、其分娩は至極容易簡單にして、難産なるものは甚だ稀れに、且つ人手を借る事なくして、自から一切を處理すると云ふ、産婆入らずの人民とても申すべきか

(一九) 淑女謝禮を忘る

ニューギニア女子の分娩 淑女謝禮を忘る

暹羅婦人の散髪男裝

會つて一度英國總理大臣の椅子を占めたる、彼のローズベリー卿と同車して旅行せる一淑女、下車するに方り端なく其手にせる日傘を取り落せしかば、卿は叮嚀に拾ひ上げ淑女に手渡したるに、一言の禮も云はず薩々と其儘に立ち去らんとせしかば、卿は之れを呼ぶ留め御身は忘れ物を爲し給へりと笑ひながら言ひ掛けたり、淑女は忽ち何物をと叫びしが、卿は何物とないや有り難しと云ふとなりと晒落ければ、車中の人々何れも興じ合へりとぞ

(二〇) 暹羅婦人の散髪男裝

暹羅に赴く者は同國男女兩性の區別に苦む由、其仔細は暹羅に於ては女子の服裝男子に比して格別の相違なき上に、女子は孰れも散髪なるが故、男女の見分けの附かぬも無理ならぬ事そかし、何故に女

子が散髪なるやと云ふに、是れに就ては歴史的原因あり、今を距ると百數十年前、緬甸の兵暹羅のアルシヤ城を攻撃したる時、女子は皆な頭髪を断ちて男裝を爲し、衛兵となりて防禦に任に當りたるに、緬甸の兵其兵數の多きに駭き退却したるもあり、爾來當時の事を忘れざる紀念として散髪となりたるなりと、故に今日に至るも女子は頭髪を貴しとせず、其頭は恰も靴磨のブラッシの如しと云ふ

(二一) 婦人の頭髪賣買

暹羅婦人の頭髪はブラッシの如しと云ふに、歐州文明國に於ては亦た婦人頭髪の賣買盛むなりと云ふ、世は様々な者かな、倫敦に輸入せらるゝ頭髪は毎年五噸に下らず、巴里に於ては毎年二十萬斤にて其價格は實に八百萬圓に達すと云ふ

婦人の頭髪賣買

(三二) 指輪のはめ方

指輪のはめ方に就き夫れく固有の習慣各國人の間に行はれつゝあるは世人の知る所なるが、獨逸に於ては男女親しく交を結び始むる時、或は許嫁の際に交換する指輪は、先づ左手の指にはめ、結婚後其指輪を右の指に移すを以て一般の風習と爲せり、右に關して面白き話あり、日本人にて有名なる某氏同國に滞在中、一美人と深く云ひ替はし、例の如く指輪を交換する際誤つて左手にはめたり、美人は不思議に思ひ、若しや自分を既に正式の妻と見做す日本の習慣ならずやと疑ひ、其後は情緒更らに纏綿を加へ、某氏歸朝の際には附け廻はして離れざりしより頗る閉口したりとなん

(三三) 十八歳の少女市長となる

墨西哥のリーチーレスと云へる市は、本年夏季黄熱病流行し、病勢猖獗を極め、一萬五千の市民減して僅か三千人となり、市長も亦た死亡したるより、市廳の事務を執るもの無く、一市殆むと暗黒世界の有様となりたり、然るに市長の令嬢當年十八歳の妙齡なるが、自から進むで市長の任に當り、疫病流行中見事に市政を執行したるより、州の議會は嬢の功勞を旌表し、又た州知事は此程嬢に市長の全權を委ねたりと、十八歳の乙女市長となりしは、世界に於て無類の話と云ふべし

(三四) 布哇土人の結婚

十八歳の少女市長となる

布哇土人の結婚

布哇土人の結婚

二五二

布哇土人結婚の概略を左に記すべし、男子は十七八歳より二十歳前後、女子は十五歳以上に至れば婚嫁するを通例とす、而して其婚姻の風習は大抵歐米の習慣に依れども、間々許嫁の法に随ふ者あり、又た男女の権利は殆むと同等なれども、仔細に觀察すれば女権の方稍や優れるものゝ如し、然れども庖厨の事並に洗濯などの事に至りては、如何なる場合にも男子の手傳ひを受くるとなく、苟且にも是等の事に關して男子の手傳ひを受くるは、婦人たる者に於て無上の恥辱と爲すの風あり、又た男子は常に傭工を職業とし、若干の収入あれば妻を作ふて踏舞場に赴き、囊底をハタク迄では遊び暮らして翌日の事を心配する氣色更らになし、而して土人の傭工賃は大概一週間七八圓以上なるが故に、貯蓄せんとせば容易に資産を作るとを得べき筈なるに、土人は貯蓄を卑み是等の事を爲す者あれば、擯斥

嘲弄するを以て年中素寒貧にて懶惰の風習に陥るもの多しと云ふ

(二五) 電話交換手の損害要求

米國の電話交換手なる一女子は電話にて己れに戯れたる某紳士を相手取りて訴訟を提起し、道徳上及び心性上の損害を興へられたるものとして、貳百弗の賠償を請求したりと云ふ、我國の板面者も屢々電話を利用して様々の冗談戯言を弄すると珍らしからぬが、此種の手強き交換手あるを聞かば、幾分か板面を慎むべきか

(二六) 露國の婦人旅館

露國に於ける女權擴張の運動は近來益々盛大を極め來れるが、同國の婦人衛生會にては婦人専用の目的を以て一大旅館を露京に建設す

電話交換手の損害要求

露國の婦人旅館

二五三

婦人に對する奇なる慈善事業

二十四

るの計畫中にて、此族館は株式組織なれども、株主は悉く婦人にて建築設計を婦人の技師に依頼する筈なり、而して止宿人は勿論旅館の給仕人に至る迄で一切婦人に限る都合の由なるが、今頃は建築落成して天晴立派なる婦人旅館を露都に現出したるならん

(二七) 婦人に對する奇なる慈善事業

獨逸國ハツシユマン市には奇異なる慈善事業行はれつゝあり、同市に於ては最醜婦と結婚したるもの、最も甚だしき不具なるものと結婚したる者、及び二回以上男子に騙されたる四十歳以上の婦人と結婚したる男子に、毎年賞金を與ふるなり、此賞金は同市の或る富豪が一般世人の美婦人を慕ふの弊風を嘆し、死去の際遺言して特に資産の一部を遺囑し、其利子を以て毎年最醜婦百六十圓、甚だしき不

具なる婦人に百二十圓、四十以上の不幸なる婦人に百圓を與ふるとし、尙ほ此任務を委託されたる人の意に隨ひて、此等の婦人と結婚したる男子には、此以上の賞與金額を與ふべしと命じたるなりと云ふ、世の不幸なる婦人を救ふに於て、此の如き方法を用ゆるは、其當を得たるものと謂ふべし

(三八) 箱の中の新婚旅行

米國カリフォルニア州に先頃結婚したる一夫婦あり、新婚なるマシユランド嬢は、良人と共に新婚旅行と云ふ場合に至り、夫に向ひ尋常一様の新婚旅行にては面白からず、何か善き思ひ附きなきやと尋ねたるに、夫なる人左らば風船旅行と洒落れんと提案したるに、是れ又た今日に於ては極めて俗なりと一言の下に排斥せられたる

箱の中の新婚旅行

二十五

露國皇后陛下の化粧費

二十六

より、新夫は何がな珍らしき旅行方法を案出せんと百方苦心の末、思ひ附きたるは木にて大きな箱を造り、之れを山の中に持ち出し、高さ十二丈ばかりなる高木の枝に吊り下げ、其箱中にて當分生活せんと云ふとなりしが、新婦は其れこそ名案なりとて早速賛成し、其準備を調へたる上、繩梯子にて二人して件の高木を登り、首尾能く箱の中にて新婚旅行を爲したるか、茲に困つたとは此新婚旅行大いに新婦の御意に入りたるものと見へ、新婦は箱の中より下ることを拒み居たりと云ふ、是等は随分一風變はりたる新婚旅行と云ふべし

(二九) 露國皇后陛下の化粧費

露國皇后陛下は香料白粉石鹼香水其他の化粧費として、年々貳千磅を費やさせ給ふ由にて、化粧品は何れも巴里より特に取寄せたる物

なりと云ふ、陛下の一日に好ませ給ふ香料は、蕙望なるが香氣を愛させ給ふの甚しき日々居室を百合、素馨、水仙、番薇、白蕙等の香液にて萬遍なく薫らせ給ひつゝあり、香水は毎夕五時より七時迄の間にて於て特に集めたる蕙望より製するものを用ゆるを例とす、此時間こそ一日中最も好良の香氣を放つ時間なりと、陛下自から信じて給ふとは借ても凝り性にて御はす哉

(三〇) 露國政府金銀婚者に金牌を與ふ

露國政府は金婚式及び銀婚式を擧ぐる夫婦を稱揚する爲め、金牌を贈與しつゝあり、此金牌を受けたる日出度き夫婦は先頃迄の調へにて六百十四人ありたりと云ふ

(三二) 露國の乳母

露西亞にては中流以上の家庭に於て子供に對して乳母を雇ひ入れ、實母に代りて保育の任に當らしめ、其子に對する権力も往々實母を凌ぐとあり、此等の乳母は子供成長の後ち解雇するを例とすれども、家計裕かなる家庭にては終生所謂飼ひ殺ろしとして保護するのみならず、其室家内に於ても上地位を與ふと云ふ

(三三) 美人競争勝利者

去る頃巴里に於て美人競争會の催ふしあり、三千の佳麗は物かは傾城傾國惱殺恨殺の美人無慮三萬人に上ぼりたるが、其内にて最高點を得たるは英國の女優マウデ嬢にて、顔は丸る方眼は二重眼縁にて

顔る大きく、唇は上下共に頗る厚く、鼻は狭く高きよりは廣く低き方にて、從來の美人モデルとは其趣を異にせる所あるを以て、美人の變遷を示す者なりと云ふ者あれば、此勝利者は女優なるが故に未だ其變遷を示すと云ふを得ざるなり

(三三) 米國婦人の涙競争

先きには英國婦人噀の競争に關して記載する所ありしが、茲には又た涙の競争に就き述ぶる所あらん、一昨年暮春の頃米國市加古市に於て催ふされたる涙の競争は、實に珍らしき話にこそ、其目的は葱類の如き刺戟質の力を假るとなくして、五分間に能く幾何の涙を出しるかを示すにあり、而して其賞與は一等二百圓、二等五十圓、三等二十圓の三種に區別して、競争の結果グリソンと稱する娘豫定の

五分時間に三十一滴の涙を落し得たるを、最多量の落涙者として一等賞を與へ、某既婚婦人十九滴を落したるを二等賞とし、僅か十四滴を落したる者を三等賞としたる由なるが、楠の泣男も此等の無理泣き婦人に對しては顔色なかるべし

(三四) 支那の泣女

涙の競争會に賞金を得る米國婦人あれば、又た葬式の行列に雇はれて無理泣きする支那婦人あり、涙や涕泣や中々に生産力を有すと云ふべし、支那に於ては葬式の度び毎どに泣女なる者必ず葬式の列に加はるを例とす、其模様は麻の頭巾を被り、麻の衣を纏ふて、竹の杖を突き一町内外に響き渡る聲を放つてアーンアーンと泣き叫びつゝ、棺の後に附き添ひ歩むと云ふ、此泣女は金錢を費して雇ひ入る

しものにして、貧富の度に依り差異あれども、少きは五六人、多きは五六十人を雇ひ入れ、泣女の多人數なるものを其家の名譽と爲し居ると云ふ

(三五) 佛蘭西の寡婦と煙草店

我國に於て後家若しくは妾が煙草屋の小賣りを營業とするが如く、煙草販賣を政府の専賣業とせる佛蘭西にては、國家に功勞ありたるものゝ寡婦、或は孤兒に煙草店を興ふるの制度あり、此煙草店を興へられたるもの二百人を下らすと云ふ

(三六) カイロ府の婚姻招待

歐米諸國に於ける結婚は普通に十分間式場に列し、短時間に響應を

女子身長の程度 獨逸の不釣合の夫婦

三十二

濟まし了るを例とす、然るに埃及國カイロ府に於ける結婚式は、前後三日間に亙りて晝夜の別なく、招待されたる客人は其間御馳走づくめにて、中途に歸るを許されずと云ふ、難有迷惑の話と云ふべし

(三七) 女子身長の程度

大女と云ふは如何なる身長の者を云ふや其程度國々により多少の相違なきにあらざれども、歐米に於ては六尺以上あるを大女とし、又三尺以下の者を、最矮小の女子となし居れり

(三八) 獨逸の不釣合の夫婦

獨逸に一夫婦あり、夫の身長殆むと八尺に近く、婦人は五尺にして目下世界第一不釣合ひの夫婦なり

(三九) 諸國女皇の體格

歐洲諸國の女皇中にて最も短軀にして、体量の重くおはせしは、故英國女皇陛下にて、其身長五呎に満たざると一時なりしも、重量は實に百七十一封度約二十一貫を超へたる由、而して最も長身なるは現和蘭國女王ウイルヘルミナ陛下にて、身長五呎五吋半、胸廓四十二吋、腰部二十一吋半、其重量は百三十封度約十六貫を超へさせ給ふ、總して各國女皇は平均身長五呎四吋、重量平均百四十一封度約十七貫腰部平均二十五吋なりと云ふ

(四〇) 不釣合ひの兩陛下

伊太利國王と皇后陛下程不釣合ひの御夫婦は世界の皇室中に類な

諸國女皇の體格 不釣合ひの兩陛下

三十三

最矮小の婦人 珍無類の少女

三十四

るべし、兩陛下の並はせて居並び給へる處を拜觀し奉るに、皇后陛下は前記の通り五呎五吋半におはし給ふに、王陛下は漸やく五呎を
超へさせ給ふが故、恰も「いろは」文字の「り」の字形をなすと云ふ

(四一) 最矮小の婦人

マイベル女皇と稱名さるゝ世界最矮小の婦人米國ニューセルシーに於て先頃死去せり、此婦人は本名をメイ、ジエーン、ピアセイと呼び、
今より四十年前の出生にて、身長僅々三呎一時、体量は唯だ五十封度六貫目に過ぎざりしと云ふ

(四二) 珍無類の少女

マイベル女皇を世界の最矮小婦人とすれば、是れは世界珍無類の小

女なるべし、明治廿八年春頃英國倫敦に於て見世物となりたる女は、
其頃年齢十五歳にして、身長二十吋一尺六寸重量十五封度一貫八百
目に過ぎずと云ふ、今日生存し居るや否やを知らず

(四三) 露國內に於ける婦人國

露國スモレンスク州に四十哩四方許かりの地あり、此土地は婦人國
として知られ、一年中の多くは婦人のみ住ひ、政治は婦人に依りて
施行さる、此國に於ては男子は一年の或る季節に至れば、職業を得
むが爲め住居を跡どに他郡に出で行き、留守には婦人の町長村長よ
り、町會村會ありて、諸種の公共問題を議決し、萬事都合よく運び
て、財政の手際などは有名なるグラッドストーン氏も三舍を避くるば
かりなりとぞ

露國內に於ける婦人國

三十五

(四四) 貴婦人の愛犬

其日暮らしの米代に差支へて首縊る貧民もあれば、一匹の愛犬に數萬金を投じて惜まざる富豪もあり、社會黨の愚痴や小言も無理ならぬとなり、英米にては從來馬市流行し、各素封家は烏雅赤兎千里の駿足を出だして、互に其豪富を闘はすの風ありしが、二三年前より嗜好一變して、目下犬市大に流行し、パリーミンガム市の大市には、世人の未だ曾つて見たるとなき珍種逸物集まり、其中アームストロング夫人の所有に係る犬二匹行價十萬圓、ニューヨークスル侯爵夫人の愛犬も亦た十萬圓、其他四萬五萬の高價なる犬數十匹ありたりと云ふ、犬公方網吉公も地下に垂誕し給ふとなるべし

世界の婦人

(四五) 米國婦人と犬の盛葬

英米婦人の犬に狂せるは前記の如し、従つて犬の爲めに葬儀を營むとも亦た珍らしからず、先頃ニューヨークのボウサーと云へる一婦人によりて行はれたる犬の葬式の如きは、其一例なり、其愛犬はゼニーと呼ぶものなりしが、死骸を美麗なる棺に入れ、王侯の死去せる時の如く之れを客間に飾り、學校生徒をして縦覽せしめ、葬儀を終るまで絶へず樂を奏して靈魂を慰め、儀式萬端立派を極めたりと云ふ、又た此犬の爲めに墓標を立つる筈なりと

(四六) 小供の夫婦

英領印度にては十四歳以下の小兒にして既に正當の結婚を爲し居る

米國婦人と犬の盛葬

小供の夫婦

九歳の少女結婚す 朝鮮人の婚姻 三十八
者男兒十萬人、女兒六十二萬七千人の多きに達し居るに、尙ほ四歳未滿の兒童にして、兩親の約婚に係る者男兒八萬六千人、女兒二萬四千人を數ふと云ふ

(四七) 九歳の少女結婚す

希臘阿典の廓外にありたる事なるが、廿五歳の一男子九歳の少女と結婚したり、最初僧侶は餘まり不倫の事なればとて儀式を擧ぐるを拒みしが、上役の監督に強ひられ餘儀なく儀式を擧げたりと云ふ、お半長右衛門の如きは云ふに足らず

(四八) 朝鮮人の婚姻

朝鮮に於ける婚姻は賣買に依つて行はれ、蠻風の甚しきものあり、

中等社會の男子妻を娶らんとせば、其女の初婚者若しくは再婚者の等級に因りて三百圓以下の金圓を以て、普通物品賣買の如く之れを買受けざるべからず、而して朝鮮婦人は大抵十二三歳にして既婚ならざるはなし、又た最早婚期を過ぎたる婦人と雖も、五十圓以上百圓を投せざれば娶る能はず、故に婦人は何歳なりとも無代價のものにあらず、己でに金銀を以て賣買すと云へば、牛馬と異ならざるが故、婚姻の儀式などあるべく思はれざるも、實際に於ては決して然らず、随分繁雜なる儀式作法ありて大金を要すと云ふ

(四九) 各國婚姻年齢

男女の結婚年齢に關しては各國各制限を設けて早婚の弊を防ぐの法となせるが、今其の許可せる結婚年齢を記るさんに、米國は男子

一回の接吻二百餘人を殺す

四十

十四歳以上、女子十二歳以上、獨逸男子十八歳以上、女子十四歳以上、佛國男子十八歳以上、女子十五歳以上、露國男子十八歳以上、女子十六歳以上、埃國男子十四歳以上、女子同く十四歳以上、西班牙男子十四歳以上、女子十二歳以上、白耳義男子十四歳以上、女子十二歳以上、希臘葡萄牙瑞西は白耳義西班牙に同く、匈牙利國に於ては新教徒なる男子十八歳以上、女子十五歳以上、舊教徒男子十四歳以上、女子十二歳以上なりと、何れも法律を以て制限し居れり

(五〇) 一回の接吻二百餘人を殺す

一回の接吻二百餘人の生命を奪ひたる滑稽にして慘酷なる事實十數年前西班牙フロリダ沿岸の小港カンダロに起りたるとありき、一日

同港碇泊船乗組員中に黒死病嫌疑の患者生じたるより、規定に従ひ同船は檢疫所緊留を命せられたるに、乗組員は無聊に堪へず其中の一人或る夜密かに短艇に乗じて吐陸し、豫ねて感慙を通せる一婦人に久振にて邂逅し、例の通りキッスを爲したるに、此接吻の効能は觀面にして、數日を経ると右の婦人は眞正に黒死病に罹り、忽ち全村に蔓延して人口一千五百人の内、病疫に斃れたるもの無慮二百名に達したりと云ふ、此くの如き實例は尙ほ他にも多々あり、現に市加古の某娘猩紅熱に罹れる一人の男に接吻せられたるに、其後數日を経て娘は同病の爲め終に死亡したりと云ふ

(五一) 接吻利用の窃盜

米國紐育市に於て一昨年頃より美裝せる妙齡の美人にて白晝街路に

接吻利用の窃盜

竊盜を働くものあるとの事にて、華盛頓の獨逸大使館付き武官カー
 フェへ男爵も現に被害者の一人にて、被害當時の状況に關して男爵
 の語る所を聞くに左の如し、男爵は當日紐育の五番廣小路邊を散歩
 したるに、二名の美婦人近寄りてパーク街への途を尋ねける故、男
 爵は深切にも態々同所迄で案内し、世辭など云ふて別れんとしたる
 に、一人の婦人は突然男爵に抱き附きて接吻したり、男爵は事の意
 外に驚き魔誤附きたる一刹那、其財布を掬り取られたるを發見した
 れど、甘まぐ欺まして警察署に連れ行かんとしたるに、二人の婦人
 は逸早やく附近にありたる客待馬車に飛乗りて何處へか逃去りたり
 と云ふ

(五二) 非接吻同盟會

米國の婦人矯風會にては非接吻同盟會なるものゝ運動を開始したる
 由なるが、漸次勢力を占めつゝありと、其主張者はバットフィールド
 ドと呼べる女醫にて、其説によれば接吻は野蠻の遺習にして、病毒
 の傳染を媒介するのみならず、且つ道徳上嫌惡すべきものなるが故
 に、全然廢止すべしと云ふにあり

(五三) 接吻の種類とその研究家

獨逸國フレスラウ高等學校教授テオドルシブス氏は、近來種々の
 方面より接吻に關して研究し居れり、而して同氏が印度ゲルマンの
 文明國民の間に行はるゝ接吻の調査を爲したるに、接吻の種類には
 愛の接吻、親密の接吻、平和の接吻、謝罪の接吻、尊敬の接吻、謙
 遜の接吻等ありて、此外の場合に接吻の行はるゝ事なしと、而して

其接吻を施す場所は其接吻の起る精神動機に因りて異なれども、先づ主として目、額、頭髪、頸、鬚等は愛の爲めに接吻せらるると云へり、接吻の最も奇なるは愛人の乗りたる車の接吻、愛人の書きたる手紙の接吻、又た久振りにて歸來りたる故郷の土の接吻等にして、古來靴の接吻、手紙の接吻は敢て珍しからず、而して接吻が必ず人類一般天涯地角何れの土地にも行はれ居るや否やは、疑問にして、假令へ親密なる表情として行はれざるにもせよ、兩姓相觸れ相感する場合には相互の唇に相觸れべきは、表情の發動として必ず行はれべき筈なるに、斯かる場合に唇を用ゐずして互に鼻を相摩し、或は鼻を相壓する人民世界に少からず、ニュージーランド人、亞弗利カのネグロ人、及びマレー人等は即ち然かり、又フイニシヤ人は接吻を見て不思議に感じ居る由なり、近來は歐米にても特別親密なる

間柄の外は接吻を行はざるに至らんとするの傾向あり云々と、接吻學研究家の所説斯くの如し

五四 墨西哥の神女

墨西哥は熱國なるが故に婦人三十歳にして老婆となるを普通とす、然るに同國にテレサウルレアと云へる婦人今年廿九歳の婆さんなるに、其容貌風采は少女の如く、華美艶妖にして中々の國色なり、此婦人は國人より聖母テレサと尊稱され、其手に觸るれば聖者は聲を聞き、盲人は物を視、病者は癒やさるゝとて信仰歸依甚だ厚し、同女は曾つて桑港に來り同地の新聞記者を招待し、其眼前に於て手術を施し、批評を乞ひたるとあり、又た米國政府人類學研究所より、一學士テレサの事を聞き面會を求めたるに、テレサは快諾して面會

其接吻を施す場所は其接吻の起る精神動機に因りて異なれども、先づ主として目、額、頭髪、頸、髭等は愛の爲めに接吻せらるると云へり、接吻の最も奇なるは愛人の乗りたる車の接吻、愛人の背きたる手紙の接吻、又た久振りにて歸來りたる故郷の土の接吻等にして、古來靴の接吻、手紙の接吻は敢て珍しからず、而して接吻が必ず人類一般天涯地角何れの土地にも行はれ居るや否やは、疑問にして、假令へ親密なる表情として行はれざるにもせよ、兩姓相觸れ相感する場合には相互の唇に相觸れべきは、表情の發動として必ず行はれべき密なるに、斯かる場合に唇を用ゐずして互に鼻を相摩し、或は鼻を相壓する人民世界に少からず、ニュージーランド人、亞弗利加のネグロ人、及びマレー人等は即ち然かり、又フイニシヤ人は接吻を見て不思議に感じ居る由なり、近來は歐米にても特別親密なる

間柄の外は接吻を行はざるに至らんとするの傾向あり云々と、接吻學研究家の所説斯くの如し

五四 墨西哥の神女

墨西哥は熱國なるが故に婦人三十歳にして老婆となるを普通とす、然るに同國にテレサウルレアと云へる婦人今年廿九歳の婆さんなるに、其容貌風采は少女の如く、華美艶妖にして中々の國色なり、此婦人は國人より聖母テレサと尊稱され、其手に觸るれば聖者は聲を聴き、盲人は物を視、病者は癒やさるゝとて信仰歸依甚だ厚し、同女は曾つて桑港に來り同地の新聞記者を招待し、其眼前に於て手術を施し、批評を乞ひたるとあり、又た米國政府人類學研究所より、一學士テレサの事を聞き面會を求めたるに、テレサは快諾して面會

したり、而して同學士の説く所によれば、テレサの言語動作毫も矯め飾る所なく態度風采は温雅にして威嚴あり、能く人を感動するに足ると、彼の婦人の語る所に依れば、彼れは數年前病に染みて病褥にありたる際、聖母マリヤに見へ神方を授かり、人類の爲め之れを用ゆべしと命せられたるなりと、又たテレサの意欲を目的とせず、博濟慈善の脚意にて治療を施すが故に、極貧の男女患者四方よりテレサの門に集まり來り、門前市を爲すと云ふ、不思議なる神女哉

(五五) 孟買の断食女

テレサは神女ならんも、是れは亦た濱口熊嶽の女房か娘とでも云ひ度き横着女なり、先年孟買にて公衆の面前に於て断食を始めたる一女子は、一種の醫藥のみを飲用すれば、數十日間断食して毫も健康

を損せずとの觸れ込みにけるに、諸人は神女よとて尊敬淺からず、贈物賽銭山のくくなりしが、断食の四日目に至り其衣服の中に食物を隠し居りたるを發見され、オヂヤンとなりし由、随分ツウツウしき娘かな

五六 印度婦人のお黒い

何れの國民と雖も顔面皮膚の雪の如きを賞美せざるなきに、獨り印度の婦人は黒きを尙び、お白いの化粧は一切施さず、左なきだに黎黒漆の如き顔に、一種の黒粉を塗ると云ふ

五七 老婦人の若返へり

支那の詩人は公道世間惟白髮、貴人頭上不曾饒と悲み、西洋の詩人

は Make me a child again と叫び、兎角年波の寄るは苦になる者なるが、世間には鬢髮霜を戴き、腰は梓の弓となる頃、若返へるもあり、佛蘭西のミラボー侯爵夫人の如きは其一例なり、夫人は八十六歳の高齡にて身終りしが、其死に先たつ四五年前より俄かに若返へり、壯時の夫人と毫も異なる所なかりしと云へり、此外マアゲリト、ヴェアダアと稱する一僧尼は、六十二歳に至り、皮膚一面の皺俄かに消へ失せ、視力を回復し、齒の再生を見たる由なるが、十年後七十二歳の老齡にて死したる當時、其容姿艶麗、妙齡婦人と少しも異ならざりしと云ふ、總入齒や白髮染は無論斯様な人間か殖へては必要なくなるべし

(五八) 菌好きの下女入用

倫敦の或る桂庵を訪ふて、年齢十八歳から二十二歳位迄での、下女志願者にて、菌を好める者一名を雇ひ入れたしと申込みたる一老婦人あり、菌好きの下女とは是れが初めてなるを以て、桂庵にては開は全體如何なる譯なるかと尋ねたるに、老婦人は眼鏡越しに桂庵の男を見詰ながら、菌好きの下女入用と云へば他所にては不思議かは存せねど、私方にては雇入るゝ下女は凡て菌好きの者に限る、其仔細は自分を初め家内一同大の菌好きなるが、餘程注意せぬと大變を惹き起す故、五六年前から思ひ付き、菌を食す前に先づ下女に食はせて其無害なるを試験し、安全なるを確めて後ち食するを常とす、今日まで五年間に菌の中毒にて二人の下女を失ひたりと、酒々菌食ひの一伍一什を語り出でたるには、流石の桂庵も返へす言葉なく黙然たりしと

氏なくして玉の輿に乗る女の運命は定めなき者なり、露國彼得大帝の皇后マーサの如きも其一人なり、元來マーサはマリエンベルヒ市に於けるルーテル派の一僧侶の家に下女たりしを、露國軍が同市を陥落せし當時、ボエルと稱する一將軍の手に生擒られ、凱旋の後メシチコフ公に献上したり、其後一日大帝、公の邸に行幸の折、不圖マーサを見て愛戀の情禁する能はざるより、公は更めて同人を帝に献上し、茲に帝は目出度結婚式を挙げ、當年貧乏寺の下女は大露國皇后に冊立せられたるなり

(六〇) 朝鮮婦人ニ妓生學校

垂亡半死の朝鮮國にも我邦の小學校を真似たる公立小學校あれども、校勢何れも振はず、其最も盛大と稱せらるる校舎にても、在籍生徒僅か三十名にして、日々實際登校するものとは、僅々十數名に上ぼらず、半島教育の有様いとも憐れなるに、之れに反して其勢の隆々たるは妓生學校なり、妓生學校とは妓生を養ふ所にして、一校各百名以上の生徒あり、彼の小學校は無月謝なるに三十名に充たず、妓生學校は多額の月謝を食るに、尙ほ且つ此くの如く多數の生徒を有するは他なし、朝鮮にては一般平民と、郡守觀察使の如き役人とは、其懸隔甚だしく、恰も維新前我國に於ける百姓町人と大名との如き者にて、到底青雲によち登るなどは、一般平民の望む能はざる所なれば、妓生學校を卒業して官妓となり、以て大官高位の人に接近し、美貌艶言を以て其心を左右し、而して傲然平民に傲らんと欲

朝鮮婦人ニ妓生學校

下女出世して皇后となる

朝鮮婦人ニ妓生學校

(五九) 下女出世して皇后となる

氏なくして玉の輿に乗る女の運命は定めなき者なり、露國彼得大帝の皇后マーサの如きも其一人なり、元來マーサはマリエンベルヒ市に於けるルーテル派の一僧侶の家に下女たりしを、露國軍が同市を陥落せし當時、ボエルと稱する一將軍の手に生擒られ、凱旋の後メシチコフ公に献上したり、其後一日大帝、公の邸に行幸の折、不圖マーサを見て愛戀の情禁する能はざるより、公は更めて同人を帝に献上し、茲に帝は目出度結婚式を挙げ、當年貧乏寺の下女は大露國皇后に冊立せられたるなり

朝鮮婦人の愛情
五十二
所謂半亡國に於ける出世の近道とは淺間しき
話にあらずや

(六一) 朝鮮婦人の愛情

朝鮮國に於ては夫婦の間に眞の精神的愛情なく、男子は婦人を以て
只だ子孫を繁殖せしむる唯一の器械と信じ、女子の夫を擇ぶにも敢
て其才幹人物とか容貌の美醜とかを問はず、只だ其地位財産を問ふ
のみ、而して貞女兩夫に見へずとの古語を守るどころか、彼等は生
涯幾人の夫を持ち替ゆるも決して耻るとなし、然れども其夫を亡ふ
時丈けは叫喚悲泣し、中には自己の指を断ちて棺の中に收むるもの
あり、是れ皆な假装的の狂言なり、其證據として朝鮮には未だ曾つ
て情死なるものを聞かず、是れ彼等に眞の愛情なきを示すものなり

(六二) コザツク婦人良人を養ふ

露國コザツク兵と云へば曾つて西比利亞を征服したる慍悍猛勇なる
兵士として其餘威尙ほ子孫に及び、世界に有名なる猛者として知れ
渡りたる者なるが、其家庭内に於ける親子の關係、夫婦の愛情は頗
る親密にして、日々和氣篤々春風駘蕩の裡に生活す、而してコザツ
クの男子は、峻阪に駿馬を驅りて狡兔を射、雪天に鎗を揮ふて猛熊
を刺すなど、只管野外に武張りたる事のみを爲す、故に一家の生
計には毫も關係せず、家内大小の經營は皆な婦人の手によりて處置
せらる、コザツクの女は其嫁せざる内に家居して愉快に日を送り、
或は美服を纏ふて芝居を見物し、或は同年輩の友達相集まりて種々
の遊戯を試むるなど、所謂お嬢様の境界にて氣儘三昧なるも、一朝

コザツク婦人良人を養ふ

他人の妻となりたる以上は、娘時代とは打ッて變はりし有様にて、朝に星を戴みて出で耕作に従事し、夜は裁縫其他に身を委ね、其間には水仕事やら、子供の世話やらにて些の暇も楽しみもなし、斯かる有様にて男子は妻に養はるゝが故に、女権強きかと云ふに、矢張り男尊女卑の風習とて、女子は先天的に男子に服従すべきものと確信し居るが故、少しも勞役服従を苦にせずと云ふ

六三 キルギス人と妻女のテント

彼の遊牧民キルギス人の仲間にては、貧者は唯だ一個のテントを有するのみにて、夫婦とも此一張のテントの下に住ずれども、其富める者に至ては、妻女専用のテントを所有し、七八人の本妻は夫のテントの周圍に各自専用のテントを張りて家を爲すなり、夫は妻を自

己のテント内に招ぐとなく、氣に入りたるテントに入りて夜を明かす習慣なりと云ふ

六四 キルギス人女子の待遇

キルギス人の飲食物は總て女子の調理する所なるが、調理終れば家の中央に食卓を据ゑて、其上に一切の食物を列べ、男子食事を始めれば、女子は皆な片隅に寄りて男子の飲食するを見物す、男子は食事中己が氣に入りたる妻の前に食ひさしの肉を投げ與ふると、恰も犬猫に與ふるが如くするも、女子は尙ほ僥倖として、平氣で其を拾ひ食す、男子食事を終れば女子は其食ひ残りの食卓に坐して食事を始む、彼等は斯くの如く薄食粗糲なるに拘はらず、日夜非常に勞働するが故に、其身體の營養發育甚だ不良なりと云ふ

(六五) 西藏の夫婦制度

西藏に於ては夫婦は一夫一婦と、一夫多妻とあり、是は決して妻を畜ふるにあらすして、一夫が正式に數妻を娶るなり、又た一女數夫と云ふ反對の例もあり、亦は一女にして兄弟ある家に嫁し、兄弟共通の關係を有するが故、一女にして四五人の妻となる者ありと云ふ

(六六) 多藝なる女王

葡萄牙國女王は熟練なる醫師にして、又た裁縫師たり、丁抹國女王は彫刻家、畫家、音樂家たり、ルーマニア國女王は著述家、講演者たり、和蘭國女王は帽子製造人たり、伊太利國女王は有名なる語學者にして、又た音樂家なり、是等女王は何れも一個の専門家として

生活を支ふるに十分なりと云ふ

(六七) 歐洲女王中の美人

歐洲各國の宮廷内は美人の淵藪なりとの稱あるが、美人中の美人はセルピヤのナタリヤ女王なるべし、女王は三十六相具はらざるどころなきも、殊に人をして恍惚禁せざらしむるは、如何にも形よく刻める如き頸脚と、其の端正なる姿勢とにして、頸脚の美しくさは、ミロの刻るビーナス(愛の女神)の其れに彷彿たり、扱て女王が斯る頸脚を有し、又た如何なる場合にもかゝる端正の姿勢を有せる秘術は、何人も學び難きにあらす、女王は毎朝宮殿の庭中に出で、水盥を頭に戴きつゝ、運動を取らるゝの例なるが、這は管に頸を整ふる爲めならず、又た其姿勢を端正ならしむるに於て著るしく効能あり

とぞ、然れども這は決して女王の新工夫に出でたるにあらず、セル
ピヤ國の一般下等社會婦女は、幼年時代より頭に物を載せつゝ歩
行するの習慣を有せざるなしと、而して此風俗は單にセルピヤのみ
ならず、中央亞細亞の各地にも行はれ、朝鮮婦人も又た其頭部に水
筒を載せつゝ歩むの風習を有せり

アビシニヤ女皇の勇武

六八 アビシニヤ女皇の勇武

アビシニヤ國に於ける女權の強よきとは前にも記るせしが、同國女
皇は亦た勝ぐれたる勇女なり、アビシニヤは先年伊太利國と開戦し、
半開國なるにも拘はらず、見事に伊國軍隊を打破り、歐州人をして
亞弗利加の一小國亦た侮り難しとの聲を放たしめたるが、同國王メ
子レク二世の后は、其名をタイトウと呼び、容貌美にして勇氣凛々、

鬚黒々の男子も避易すと云ふ國王は國家重大の問題は、一々后に相
談するを恒となし居山なるが、后は非常の大酒家にて、其愛飲する
はシヤンパンなり、其の伊國との戦争に方りて自から近衛の一隊を
引率して敵陣に向はんとしたるとあり、當世の巴御前とでも評すべ
き婦人ならん

六九 看護婦は皇大妃殿下

普佛戦争の際普軍の一兵卒は、自己の赤十字社看護婦に向ひ、御身
の親屬にして戦地にある人ありやと問ひたるに、看護婦は父と夫と
二人ありと答へぬ、病兵は重ねて其姓名及び所屬聯隊を尋ねたるに、
看護婦は答へて父はウイールヘルムと稱し、夫は人呼むでウンセルフ
リップと云ふと述べたるに、負傷兵士は恐縮して扱ては皇太子妃フ

看護婦は皇大妃殿下

列國皇后王后御嗜好一斑

六十

リードリツヒ殿下におはしけるよど、覺へず感泣したりとぞ

(七〇) 列國皇后王后御嗜好一斑

英國皇后陛下は熱心に寫真術を修めさせ給ひ、又た働作を愛し給ひ、取り分け牛を飼ふて自から牛乳を搾り取るを好ませらる、從來は自轉車に乗りて樂み給ひしが、近頃は自働車に乗りて近郊を走らせ、て樂み給ふと聞く、獨逸皇后は寫真術に妙を得させ給ひて、近來は皇太子も自分に倣ふて寫真に凝るようになりたりと仰せられ、昨年は慈善の目的を以て寫真共進會を開設し、曾つてセルザレム御巡啓の際手づから撮影し給ひたる寫真を陳列遊ばされたり、和蘭女王は騎馬を好み給ひ、又た水滑りの技に御堪能なり、又た動物を愛させ給ふ、故に獸獵競争會を嘉みし給はず瑞典那威王后は敬神の念深く

おはして、宗教事業に御身を委ね給ひ、現に救世軍の保護者たり、ルーマニヤ王后は詠歌に巧みに又た歴史に精通し給ひ、又た手藝に長じ給へり、希臘王后は快走船に乗して遊ぶを好み給ひ、伊太利王后は韻文を綴り、射的に妙を得させ給ひ、又た自働車を操り給ふ、又た白耳義王后は騎馬にて屢々厩を見舞はせらるゝとぞ、以上は歐洲列國皇后王后陛下の御嗜好に關する概畧なり

七一 臺灣土匪中の紅裙軍

今より四年前一隊の土匪蜂起して臺中に亂入し、我兵士巡查等を殺傷して亂暴を極め引き上げたが、彼等が螻蛄の斧的に斯かる亂暴を企てたるには、一種の迷信與つて力ある由にて、并は土匪中に一隊の女軍ありて、此女軍先鋒となり進めば、火も焼く能はず、銃丸

臺灣土匪中の紅裙軍

六十一

も命中せずと観音經的に迷信して、斯かる暴舉に及びたるなり、我軍は右の土匪搜索に赴きたるも、何の得る所なく歸營したりと

七二 臺灣の妖婆

前項の紅裙軍と前後關聯して明治三十四年頃臺灣に一人の妖婆ありたり、其名を柯柔と云ひ、臺中管内籃英堡藤林庄の住人にて、數年前に夫を失ひてより、一心に媽祖宮を信仰し、此神の擁護あらば如何なる強敵も畏るゝに足らず、味方は常に勝利を得ると疑ひなしとて、屢土匪の謀議に參與し、戰鬪に際すれば媽祖母の木像を抱きて陣頭に進み、其勇力亦た侮るべからざるものありしが、遂に憲兵巡查の聯合隊に生擒られ、昨年臺中地方院に於て死刑の宣告を受けたるに少しも悪るびれたる色なく、自若として絞首臺に登りしかば、

見る者其大膽なると迷信の深きとに驚きたりと云ふ、シヤンダアークの野蠻なる者乎

七三 英佛獨人の女性觀

英佛獨三國人の婦人に對する觀念は皆な一樣ならず、英人は一般に女子を人情乏しき冷淡なるものと見做し、佛人は日本女子の男子觀に男の心と秋の空と言へる如く、佛蘭西にては之れと正反對に女子を以て性來輕薄なる者と心得居り、獨人は女子を眞實なる人情深きものと見做し居れりと云ふ

七四 歐米婦人の好む良人

歐米各國に於て婦人の男子に對する好みは、國々に依りて異なれり、

文明各國婦人の化粧時間
六十四
英國婦人は風采堂々として威嚴ある男子を求め、佛國婦人は額の美麗にして愛嬌ある男子を求め、獨逸婦人は律義眞實なる男子を求め、西班牙婦人は妻の言葉を刎ね附け、又た無作法のことある場合につれなく當るは良人の常なりとして、却て此風習なき男を嫌ひ、伊國婦人は詩的男子を好み、露國婦人は他の歐洲諸國にて野蠻人と云はるゝ様なる男子を好み、丁抹婦人は常に國內に在りて外國旅行をなさざる如き男子を好み、而して米國婦人は資産多き男子ならば其地位の高下を論せず、之れと縁組せんと願ふ由、右は一英字新聞の記する所に依る

(七五) 文明各國婦人の化粧時間

化粧は婦人の嗜みにして又た生命なるべし、今歐米各國の化粧に費

やす時間を左に記すべし、元來歐米婦人は肉體を露はすと多きが故に、我國の婦人が顔や襟脚にのみ化粧する時間よりは、遙かに長時間を要す、而して其方法も亦た複雑にして、我が歌舞伎俳優の如く外貌のみならず手足胸部等皆な相當の化粧を施すなり、歐米婦人中最も化粧時間の長きは米國婦人にして、中流以上に至れば牛乳浴石鹸浴を行ひたる後、化粧に取り懸かる故に、其化粧の初めより終り迄では、早きも一時間半を要し、長きは二時間以上を費やすと云ふ、次きは佛蘭西及び西班牙婦人にて、四十分以上一時間を費やし、獨逸英國伊太利の婦人は二十分乃至三十分を以て、漸やく化粧を終ると云ふ

(七六) 歐米婦人の爪磨

歐洲貴婦人自製の靴足袋
六十六
歐米婦人が化粧に苦心するは既記の如し、殊に其爪を磨くことに於て尤も心を用ひ、其磨き上げたる上に薄紅色を加ふるは珍しからず、然るに近頃一種の新奇なる器械發明されたり、之れを用ゆる時は、爪を磨くと同時に薄紅色と好き香氣とを爪の上に添ゆるものにして、其價も甚だ廉なりと云ふ

(七七) 歐洲貴婦人自製の靴足袋

時流を趁ひ華奢を尙ふ歐羅巴貴婦人が、自製の靴足袋を穿つと聞かば、頗ぶる意外の感あるべし、是れは往時毛絲を以て靴足袋を編む風習貴婦人間にのみ行はれ、頗る高尚なる技藝として一般社會のものには未だ知られざりしを以て其足袋を穿ちて交際社會に出るは、誇るべき事として認められしより、十六世紀に於て編物の器械發明

ありて以來、靴足袋の器械的製造を爲し得るに至りたるに拘はらず、以前の風習を承け續き、今日も尙ほ手製の靴足袋を用ゆるなりと

(七八) マーシャル群島男女の關係

マーシャル群島は南洋の一群島にして、十二三年前までは外國人を近づかず、適宜同島に漂着するものあれば、其人を屠り、其物品を奪ふ故に、近年まで外國人の同島に往來する者なく、従つて土人風俗の野蠻なるは言語同斷なり、而して男女の關係に至りては勿論亂暴卑猥を極め、父子相犯かし、兄弟姉妹互に通し、階老を契りたる夫婦もなければ、婚姻の儀式の如きものある筈なし、其内多少夫婦の如き觀あるもの無さにあらざれども、婦女は一般に良人の有無に關せず、偶々外國人上陸すれば盛に春を賣り、良人も自から來りて月

マーシャル群島男女の關係

臺灣の羽子突き 自國語を解せざる女王

六十八

下水人となり、頻りに報酬を求めて止まず、斯かる風習なるを以て、男子も亦た自己の妻が他人に通ずるを怪み尤めず、誠に煩惱界を脱したる者の如し、然れども土人の他島人を見るとき仇敵の如くなるが故に、流石の野蠻婦人も他島の男子と通するとなしと云ふ

(七九) 臺灣の羽子突き

處替はれば品かはるとは此事なるべし、臺灣に於ては小さな厚紙の下に革を附け、其れへ鳥羽を挿したる羽子を足にて空へ向けて蹴上ぐるなり、春に至れば女子は勿論男子と雖も此遊戯を爲すと云ふ

(八〇) 自國語を解せざる女王

自己の統治する國の言語を知らざる女王は以太利の女后ヘレナ陛下

一人なるべし、陛下は以太利語を解せず平素佛蘭語をのみ使用し給ふこととして、其現皇帝と御婚儀の當時の如きも、佛語を用ひて儀式を挙げさせ給ひしと云ふ

(八一) 米國女學生と一日十錢の食事

米國市加古大學の女生徒は各自の食費を減する爲め、過般來種々苦心中心なりしが、先頃愈々朝飯は豆スープ、小麦製の麵包、バター、茶、牛乳及び砂糖、晝食は羊肉ステーキ、馬鈴薯、葱、捏粉製のプッチングとし、又た晩食は麵包、トースト、バター、茶、牛乳及び砂糖に限るに決し、既に實行中の由なるが、其結果に依れば、一日拾錢にて充分なるが上に、衛生上にも意外の利益ありと云ふ、毎日同一の献立にて將來食事に倦怠を來すとなきやは是れ一疑問なり

米國女學生と一日十錢の食事

六十九

(八二) 禁酒に熱中せる婦人

米國カンサス市のカリイ子一ションと云ふ婦人は無類の禁酒家にて普通溫和なる禁酒勸誘運動にては満足せず、所々方々の酒舖に赴きては有ゆる器具を破壊し、是れが爲めに處刑を受けて入獄するところも、満期出獄するや又々酒舖に至りて器具の破壊を始むるより、酒舖の困難一方ならざるも、婦人の爲めに禁酒會員は益々す増加し、其勢力當るべからざるを以て、酒舖は夫人を持って餘文し居ると云ふ

(八三) タオルの洗濯競争

昨年頃英國リヴァプール市の某教會に開かれたる慈善市に附屬して催ふされたる競争は、興味あるものなりき、并は西洋手拭を洗濯す

る競争にして、二分半の間に多くのタオルを洗濯し上げたるを以て勝者と定め、豫定の賞與を興ふるにありしが、當日參觀の婦人は何人を問はず自由に飛び入り、勝手に競争に加はるを得るとに定めありしと云ふ、此競争は其後一般に歡迎さるゝに至りしが、其所にては競争者を既婚未婚の兩種に分ちて競争せしめたるに、勝利は常に既婚者の方に多かりしも、時としては雙方五角にて勝負なしに物別れとなりしともありと云ふ

(八四) 男子の生活を爲したる女子

昨年紐育に於て死去したるムレイ、ホールと云ふは、三十年間、男子として生活したる者にて、死後醫師の診斷に依りて始めて其女子なりし事を發見されたりと云ふ、ムレイは妻を有しデモクラット黨員

男子の生活を爲したる女子

我國に於ける求婚廣告の始
七十一
として政界に馳驅し、常に俱樂部に出入して或る時は巡查に抵抗して拘引されたるなどあり、生前は誰れ一人其女子たる事を知れるものなかりしとなり

(八五) 我國に於ける求婚廣告の始

我國に於て新聞紙上に求婚廣告を爲せしは、明治十九年十月中旬頃時事新報紙上に於て求婚廣告したる某書記官を以て嚆矢とす、今日では堂々たる六尺の軀を以て、財産ある婦人を娶りたしとか、或は修學の資を補ひ與るゝ家に養子に行き度しとか、無氣力極まる卑屈男子の廣告を大抵日々如く紙上に散見す、人心の墮落風紀の頹廢定とに歎息すべき限りなり

(八六) 深夜に結婚の流行

米國紐育に於ける最新の流行は深夜に結婚式を舉行するにあり、豫ねて式を擧ぐべく定まれたる宵に至れば花嫁花婿相携へて劇場に入り、狂言に演ずる愛々たる戀の所作事を観て、聴がては自分等も開を現實にすべしと樂み、大晩餐後時間を見計ひて近所の教會堂に入り、半夜人定より物静かなる頃、結婚式の嚴やかなる鐘聲鳴渡るや、兩者一跡となりて後會衆寄り集まり、一場の舞踏會を催ふし、翌朝まで躍り續けたる上、新郎新婦相擁してホニームーンの旅路に上るとぞ

(八七) 幸運なる一少女

深夜に結婚の流行 幸運なる一少女

伊太利ゼ子バ税關に擔夫の職を執れる者の娘某と呼べるもの、不圖したる事より大札の富籤に當りたる話あり、此娘一日途中にて或る貴夫人に出會したるに、何事かの用事を頼まれ、報酬として一フラの銀貨を貰ひ受けたり、娘は貧困なる身に不時の收入ありたるを喜びて、両親にも知らさず早速ペールに開會中の工業博覽會に赴き富籤札を買ひ求めたるに、六ヶ月を経て愈よ開札となりしに、豈料らんや娘の札こそ一番の大札にて四千圓の當り籤なりければ、天にも登る心地して直ちに切手を現金に引換へたるは一昨年のお出来事なりき

(八八) 米國女子一般の傾向

米國婦人一般の傾向として注意すべきは、婦女子の壘所働きを止め

て他に相當の職を得るに汲々たる是れなり、此の現象、元動力となりて高等教育を受くる者日々に増加し、法律上社會上女子の權利を高むるなりと云ふ

(八九) 瀝車に乗らざる婦人

文明國に生れて態々汽車に乗らずとは随分風變はりの人物かな、有名なる佛國の女優ジャンヌ、ゲラニエルは、故ラスキン氏の如く汽車を好まざる人にして、曾つて乗車したるとなく、此程伊太利より巴里への長途を馬車にて歸りたる由、同優は特に旅行用の馬車と二頭の馬とを有し、何處に到るも此馬と此馬車とを使用するが故に、此二頭の馬は大陸の重なる地方には到らざる所なしと云ふ、而して此二馬に代ふべき馬なければ、旅行は極めて遅緩なれども、速力の

妻を毆打したるもの、處刑 佛國の針喰ひ娘
如きは敢て意とせざるなりと

(九〇) 妻を毆打したるもの、處刑

獨逸に於て妻を毆打したる夫に對する處分は、頗る奇妙なれども、亦た最も有効なり、而して其處刑の仕方は罰金にあらす、禁錮にあらす、即ち一週間の仕事終りたる土曜日の夕刻、彼れを拘引入牢せしめ、次ぎの月曜日の朝放還して、又た一週間の仕事を執らしめ、再び土曜日に捕へて月曜日に再び放還するにあり、斯くて刑期満つるまで、順々に此方法を繰り返へし實行するなりと、一週間の仕事を無事に執らしむるは妻子を養ふ料を得さしめんが爲めなるべし

(九一) 佛國の針喰ひ娘

手品師の針を呑み火を吹くは敢て奇とするに足らざれども、何の種も仕掛けもなくして好むで針を喰ふとは珍らしき事なり、佛國巴里より程遠からぬセント、ジャーマンと云へる村のシュリヤン、ランドリと云ふ娘は、本年十七歳の娘盛りにて、昨年より某家に雇はれ居りたるが、身體の各部より縫針幾本となく露はれ出で來りたるより、早速ピンセットにて抜き取りたり、夫れより村の醫師某の治療を受けつゝありたりたるに、手、腕、足、胸、耳朶、眼瞼、右眼の隅等より續々露はれ出で、抜き取りたる針の數は、總計百二十本に及びたり、其原因を尋ねたるに此娘十一歳の折より縫針を嚙み下だすことを好み、一日に四十九本を呑みたるとありたりとぞ、爾來五年間何等の故障を感ずるとなくして頗る健康なりし由

(九二) 婦人の胃中に五年間蛙住む

昨年紐育に於て一婦人の胃中より一匹の生きたる蛙を取り出したる
 珍談あり、而かも蛙は五ヶ年間胃中に生息し居りとは驚くべき事實
 ならずや、此婦人は其名アダセーブルツケと呼び、今より九年前今
 の良人チャールレス、パーチスに嫁したるが、其後三年を経て頻りに胃
 痛を覺へ、是れは普通の胃痛にあらず、何か生物の胃中に生存し居
 るならんと騒ぎ立てしも、夫は笑ふて取り合はず、近隣の人も开は
 神経なりとし、醫師も其原因を説明する能はず、或は一種の神経な
 りと云ひ退け居りしが、月日を経るに随ひ、胃中の苦痛は彌や増し
 に加はるのみか、食欲も非常にて普通人の三倍を要し、睡眠も甚だ
 穩かならず、夜中突然起き出でしは腹中の動物を養ふなりと稱して、

牛乳或はサイダーを飲むと珍しからず、而して茲に怪むべきは婦人
 の飽食健飲したる後は、胃中の怪物も靜穩に歸し、痛みも自然に止
 むを例とす、今より二ヶ年前に怪物は漸次成長して、腹の上より手
 にて搜ぐり得らるゝほどなり、之れを攫ふんとすれば忽ち逃げて位
 置を換へ、始末に行かぬ有様なりき、是れより婦人は益々多量の食
 物を要し頻りに神経を惱まし、頬の肉落ち、体量三十封度を減じた
 るに拘はらず、其間に二女を擧げ、就れも無事壯健にして、些の異
 状を認めず、婦人は自から失望して、醫師の藥を退け、果ては少量
 の劇藥を服して腹中の怪物を毒殺せんと謀りたれども一向に効能な
 かりき、最後に紐育セント、カザリン病院に於て診察を受けたるに、
 醫師も其病源を説明する能はず、X光線を以て腹中を照らし見たる
 に、其結果として胃中に黒き大なる物を發見したり、而して後ち其

獅子の檻内にて結婚す

八十

怪物を取り去らんが爲め手術を行ひ、胃を開き見たるに、怪しむべし其中に長サ五時位の蛙一疋住み居りて、胃の内に取ら出だされたる後も、尙ほ數分間生息し居たり、婦人は手術後の経過良好なりと、扱如何にして斯くの如き蛙が胃中に生息し居たるや、其源因は今尙は不明なるも、多分は水と共に蛙の卵を嚥下したる物の、孵化發育したるならんと云ふ

九三 獅子の檻内にて結婚す

昨年十一月十四日紐育の動物見世物小屋に於て、多くの獅子を入れたる檻内にて結婚式を挙げたる者あり、是は一千圓の懸賞金を得んが爲めなりと知らる、新婦はテレサベルグと云へる丁抹人にて、新郎はヘンリーホルトとて同じく丁抹人なり、纏がて式を挙ぐるに際

し、獅子遣ひは二挺の拳銃と、鞭とを携へて檻内に控へ、ヘアースト士と叫ぶ僧侶は平然として式を挙げたり、新婦は獅子が怖ろしき吼聲を發して跳ね廻るを毫も意に介せざる如くなりしが、新郎の方は獅子の近づく度毎に体を縮めて、稍や恐怖の色ありたり、式終りて檻を出づるや観客は非常なる喝采を爲したりとぞ

九四 蓄音機を用ひて結婚

昨年英國に於て蓄音機に依りて結婚の登記を爲したる青年あり、何故に蓄音機を用ひたるやと云ふに、此青年倫敦に於て一婦人と夫婦約束をなしたるに、生憎其當時新婦の家に痘瘡患者あり、當分正式の結婚式を挙ぐる能はざるを以て、新婦は一計を案じて蓄音器を蓄音器に封じ込みたるを、新夫の許に送り、首尾能く登記を済ませたり

蓄音機を用ひて結婚

八十一

と云ふ

(九五) 結婚上の奇風

下匈牙利國のアルフオールド村にては、結婚の當日新婦は臨席せる客の頭を石鹼にて洗ひ、叮嚀に梳り終れば、客は順番に鉢の中に銀貨若干を投げ入るゝ奇風あり、然るに村の衛生官吏は病毒傳染の媒介を爲す恐れありとて、此頃に至り、新に法律を制定して、此奇習を禁じたりと云ふ

(九六) 米國婦人の脱帽

米國婦人社會にては教會堂に入るに當り、冠り物を脱する風習行はれつゝあり、此風習は教會のみならず、劇場等にも應用され、なほ

一般の便利妙からざるべく、聽ては一般淑女に採用さるゝならん

(九七) 支那婦人の畸足

世人の知る如く支那婦人の畸形なる足は、平素深く藏くして兩親にも見せず、而して男子に對して戀情を表する場合には、少し許かりチマリと相手の眼に觸れしむるなりと

(九八) 上流社會の支那婦人

上流社會の支那婦人は日々深窓に在りて刺繡を事とするが故に、裁縫の心得なき者多く、一般に仕立屋に命じて裁縫せしむるを常とす、而して其衣服は縞子紗羅紗を多く用ひ、地質は紋のあるものを、各種の色に染めて刺繡を施すものとす、又上流中流一般に自家用の

支那婦人の畸足

上流社會の支那婦人

支那婦人の小便洗濯
靴を手製するの習慣あり、此習慣は支那婦人が自分の足を他人に見
らるゝを厭ひ、親子夫婦の間にも見せざる風習より來れるものなら
ん

(九九) 支那婦人の小便洗濯

支那人は美麗と云へるを辨へ居れど、清潔てふ事は皆無知らざる
人民なり、支那婦人の洗濯する有様を見るに、先づ其垢附きたる衣
服を水に浸し、其上より小杓子にて小便を澆き掛け、石或は石の上
に置き摺木子の如き丸き丸太を以て叩き、然る後に盥の中に入れて
清水にて洗濯するなり、此小便を用ゆるは小便中のアンモニアが能
く垢を落とす故なりと、又た一層不潔なるは福建人にして、食器を
洗ふに清水を用ひず、小便を用ゆと云ふ、不潔も是に至て極まれり

と云ふべし

(一〇〇) 支那婦人と放屁

支那人は一般に放屁を耻と思はず、婦女子と雖も出物腫物處嫌はず
と云ふ顔附きに、屢々時ならぬ異臭を放ち、婚禮の場合にも花嫁自
身放屁して何とも思はずと云ふ

(一〇一) 入浴の種類

餘りに不潔厄籠なる記事のみを掲げしが故に、是處には又た極端
なる贅澤入浴の有様を報ずべし、歐米にて當今皮膚を雪白細膩にせ
んが爲め、油の湯に入り、或は牛乳の風呂に入る婦人は珍らしかず、
昔時にありて羅馬婦人は毎朝蒸氣浴を行ひ、コリント婦人はオリ

支那婦人と放屁 入浴の種類

女子新聞記者學校
八十六
ゾ油の中に毎日二時間入浴し、ボンペーの皇后は驢馬の乳に毎朝入浴して一日も欠かせしとなく、旅行の際に至れば驢馬數百頭を引きつれて浴料としたり、又たタルリアン婦人は覆盆子の汁を以て風呂を沸かして入浴したり、而して佛國の或る醫師は病人に鮮血浴を命じたるとありと

(二〇二) 女子新聞記者學校

紐育のゾオールド新聞社長パリツツアー氏が、二百萬弗を寄附してコロンビヤ大學内に新聞記者學校を創設せんとしつゝあるは、世人の知るところなるが、此程一女子同新聞社に寄書してパリツツアー氏が男子に對すると同じく、女子新聞記者志望者の爲め、特に學校を新設せば、多數の女子は喜むで入學すべしと云ひ送れり

(二〇三) 婦人記者排斥運動

昨年來より倫敦に於て同地の男子新聞記者間に於て、婦人の新聞記者排斥運動盛むに行はれ、倫敦クロニクル新聞記者は同盟して社主に迫り、婦人記者の俸給を三分一に減せんとを要請して成功し、他の新聞社にても男子記者同じく社主に迫りて、婦人記者を盡く解雇せんとを要求したり、同地に於ける婦人記者の多くは米國人にして、其擔任の業務に對しては男子に優ると多き爲め、目下益々増加せんとする傾きあるより、男子記者社會に恐慌を起し、之れが爲め反對運動を見るに至りたるなりと云ふ

(二〇四) 華盛頓の婦人官吏

婦人記者排斥運動

華盛頓の婦人官吏

米國の首都華盛頓の諸官省に於ける書記の三分の一は女子にして、其内三名は年俸三千六百圓、五名は三千二百圓、百名は二千八百圓、四百五十名は二千四百圓、三百名は二千圓、其他は一千八百圓乃至一千三百二十圓を得るなりと、又た一昨年同都に於て行はれたる米國文官登庸試験に對し、女子志願者の七割七分は及第せしも、男子の及第者は六割二分のみなりしと、有稱男子意氣地なき哉。

(一〇五) 米漏西國の女子鐵道員

女子職業の範圍漸々擴がり來り、男子の地位を奪ふ次第は前項記載の通りなるが、尙ほ又た米漏西國にても、一昨年より鐵道事務員に女子を採用し始めたり、今又女子の執る事務の重なるものを擧ぐれば、切符の賣下荷物の受渡し、電信電話の受附及び帳簿の記入等

にて、其成績甚だ好良なりと云ふ、而して其給料の如きも男子のそれと比較して甚だ低廉にて、種々の利益少からざるが故に、同國鐵道局長は尙ほ進むで、他の事業にも女子を使用せんと企て居れりと、但し女子の勤務は晝間に限りりと云ふ。

(一〇六) アルシヤ諸島の女子風俗

アルシヤ諸島はベリリング海と北太平洋との間にある島なり、此地の婦人の毛髪は天然の發育に任せ、頭上に束髪するか、又は結髪形に結び、衣服は皆な毛皮を以て調製せられ、身体には男女一般に文身を施し、又た下唇及び鼻壁を穿ちて骨製の裝飾品を貫し、且つ骨製の長圓体を鼻の穴に挿入して鼻の形を伸張す、是れ彼等の仲間には美人の相として一般に行はるゝ風習なりと云ふ。

(一〇七) フィリッピン群島の風俗

同島は炎熱燬くが如き地方なるにも拘はらず、一般に下肢を露出するを卑しき、如何なる賤民にても、女子は勿論男子と雖も下肢を露出するをなし、假令ひ之れを露出するも、下より約二三寸に過ぎず、然れども如法の熱國なれば、身体の上は女子と雖も、一般に露出するを常となす

(一〇八) 比翼連理の老夫婦

米國アルバニーに於て今より六十年前、同年同月同日に生れて夫婦となりしものあり、夫婦の交り睦ましく浮世樂しく生涯を送り來りたるが、本年夫なる老人卒中にて逝きたるに、之れを知りたる老妻

は、直ちに其床に横りて苦もなく瞑目したり、數日の後兩人の葬儀は同じ處に於て執行され、其墓も並び合ひて安らげく睦まじき眠を結び居ると云ふ、比翼連理階老同穴とは、是等を謂ふにやあらん

(一〇九) 世界を潤歩する婦人

世界を股に掛けて横行潤歩する婦人あり、开は米國インデアナポリスのクロスレー夫人なり、齡僅かに三十歳にして、世界を一週すると已でに廿回にして、今や第廿一回目の旅行の途に上ぼらんとすと云ふ、世界一週旅行家の横綱なるべし

(一一〇) 佛國少女の世界無錢旅行

巴里のマデリーヌ、コーチエーと呼ぶ少女は一錢の蓄へなくして世

女子の大學教授 伯爵を得むが爲めの結婚 九十二
界週遊を試みたるが、其旅費は到る處の土地に於て佛文の日課を希望者に授け、其謝儀を以て之れに充てたる由にて、歐山米洲東洋深洲何れの國々も踏破したりと云ふ

・(一一一) 女子の大學教授

米國のエリザベス、デニオと稱する娘は、獨逸のハイデルベルヒ大學に於て哲學を修め、先頃哲學博士の學位を受けたるが、今回紐育大學講師に招聘せられ、美術に關する講義を開始する事となれり

(一一二) 伯爵を得むが爲めの結婚

昨年獨逸伯林の一新聞に「有名なる一貴婦人眞正なる一伯爵と結婚を望む、爵位に對しては充分の報酬を呈すと記したる求婚廣告掲載せ

られたり、廣告文中の一婦人とは身元を洗ふて見れば、此程良人より離縁されたる一女優なりしが、扱廣告掲載後三日を経て、一名の伯爵女優を訪ふて、身は伯爵の肩書を有すれど、年が年中金の爲め苦痛絶へず、夫れも其の第一年の收入僅か四百圓に過ぎずなど、種々身の上話をなして廣告に従ひ結婚を申込みたるに、女優は快よく承諾し、結婚式當日に金一千圓を伯爵に渡す事、伯爵は此金員を受け取る否や直ちに女優の側を去りて、二度と再び近かざる事、尙ほ伯爵は結婚後二ヶ月以内に故らに離婚の源因を作りて、女優は愈々離婚の許可を得たる日、更らに一萬圓を伯爵に渡す事等を互に約束し、兎に角結婚の約束を整へたるが、此誓約書はフリエドリスラ街なる一辯護士の作成する所に係り、契約上完全の効力を有すとなり

(一一三) 美人と乳房

歐洲諸國にては乳房は垂れ下る事なくして、乳首は丸く小さく真正面に向きたるを美人とし、亞弗利加のホツテントットと稱する野蠻人は、乳房の長く垂れ下る程美人なりとし、其最も長き者に至りては、乳首の下腹に達するものあり

(一一四) 露國婦人の禁酒運動

露都セント、ピータースブルグの婦人社界に於ては、アルコール飲料の需要日を逐ふて増加し、鯨飲泥酔の男子多きを憂へ、矯風の目的を以て一種の禁酒會を起したるが、會員は絶對の婦人禁酒家にして、彼等は一觸たりとも飲酒の嗜好ある人物とは一切交際せざる

この規約を定めたるは昨年の事なりとか

(一一五) 紐育の婦人と撃劍の流行

紐育にては近來婦人社會に撃劍流行し始めたり、撃劍は婦人の姿勢をして、却て端正温雅ならしむるものなりと稱し、何處の撃劍指南所も女子の徒弟を以て溢るゝばかりなりと云ふ、追々細腰柳眉の荒木又右衛門、宮本武藏を見るに至らん

(一一六) 一婦人ナイアガラ瀑布を下る

お顔婆の多き米國にても世界第一の大瀑布ナイアガラを下りしは抑も此婦人丈けならん、其人は米國ミシガン州ベイチテイの學校女教師アンナ、エツドソンテーラー嬢にして、時は一昨年一月廿四日な

紐育の婦人と撃劍の流行

一婦人ナイアガラ瀑布を下る

りき同嬢は瀑布を下る用意として、別製の筒を作らしめ、同日午後二時廿三分之れを携へてナイアガラヲフルを發し、ガラス島に向ひ同島に於て身體を筒内に入れ込み、上蓋を爲さしめて空氣を送入せしめ、三時五十分小船に曳かれて同處を發し、船の通ふかぎり曳かれ行き、四時五分に至り小船に繋ぎたる綱を斷ちたれば、筒は流れくゝて四時二十三分遂にホースシユ一の瀑頭に達したりと見る間に姿は瀑中に入り、暫し行術を失ひたるが、頓がて下流に浮び出で、流れくゝて四時四十分唯ある巖上に引き上げられたり、筒を開けば婦人は健在にて少しばかりの醫療を受けたるのみ、後直ちに自己の經驗を委はしく人に語りけるとぞ

(一一七) 女學生の密輸入

伊太利瑞西兩國々境相接するマスアリニユと云ふ處にて、近隣の女學生三々五々隊を組み通過するを屢ばなりしかば、伊國の税關官吏は不思議なるに思ひ、若しや密輸入をなすに非らずやと疑ひ、一日右女學生の通過を禁じ、嚴密に檢査しけるに、何れも多量の葉煙草或は卷煙草を着物又は靴、鞆の中に隠し居り、其價は凡そ六萬圓に及ぼすを發見したり、因に記す伊太利國に於ては煙草は政府の專賣なり

(一一八) 米國婦人のダイヤモンド狂

世界開闢以來今日の米國婦人は殊にニューヨーク澤山の寶石を所有するものはあらざるべし、紐育市のみにても寶石の輸入専門業者三百人あり、又た寶石買ひ入れの爲め歐洲に出張中の商人に至りて

米國婦人のダイヤモンド狂
九十八
は、其の幾人なるを知るべからず、而して南亞弗利加に於けるダイヤモンド採集人の多數に達したるは、主として米國婦人の需要に應せんが爲めなり、一昨年北米に輸入したる寶石の価格は實に二千萬弗に達し、其内一千二百萬弗はダイヤモンドの爲めに支拂はれたり、然るに同年間歐洲各國の寶石に支拂ひたる金額は、僅かに八百萬圓に止まると云へば、亦た以て米國婦人のダイヤモンドに熱狂するを知るべし、米國婦人は以前には主として公けの宴會にのみ裝飾として寶石を使用せしに過ぎざりしが、今日は最早日用の裝飾品として使用し、衣服に帽子に、頸に、腕に、胸に、腰に、扱ては靴にまで種々の寶石をちりばめて、男子を眩惑するに至り、世間一般斯くの如きを以て大富豪に至りては、其所有する寶石價格只々驚くの外なし、其内の著名なる者二三を挙げれば、ウイリヤム、アストア女の

有する寶石、價格は百五十萬弗、ヤコブ、アトア女コル子ウリス、ヴァンダービルド女は其もに百萬弗宛を所有し、ブラドレー、アルチン女は八十五萬弗、ベリー、ベルモント女及びオルム、ウイルツレ女は八十萬弗宛と以下推して知るべし、其家富貴澤驚くべきにあらずや

(一一九) 世界第一の富豪後家

方今全世界中に於て最も富める寡婦と云へば、先づ智利國のセノラ女なるべし、同女の財産は無慮二千萬磅約二億萬圓と註され、智利及び秘魯の鑛山を司配し、又た其所有せる船舶を以て優勢なる一艦隊を作るに足るべく、其所有の葡萄園は五千エークル二千餘町歩に互り、ロータと云へる都市の地所は全部自己の所有なりと云ふ、而

世界第一の富豪後家
百
して此寡婦が一ヶ年の収入は約五百萬磅(五千萬圓)に上り、其家に使役する所の婢僕は百六十名、其内單に庖厨にて立働らく所の料理人のみにても二十人あり、其料理頭の取る所の給料一ヶ月二千五百弗(約五千圓)に上ると云ふ、されば此女主人が一身の爲めに奉ずる所の調度は頗る莫大にて、春夏秋冬の差別なく、毎日三度宛衣服を着代ゆる爲め、數名の侍女付きりに奉仕し、其遊樂に供する爲め、國內風景よき所に二十餘の別荘をしつらへたり、而して女主人の尤も娛樂とするとは、小禽の飼養にあり、其愛玩する樂器の如きは皆な珠玉を鑲ばめ、風琴一臺十萬磅に上ぼると云ふ、殊に其飼養する所の禽鳥は、邸内に一大園苑を設け、此所には世界各國より珍禽奇鳥を集め、飼養十五人、園丁六名を以て之れを飼育保管せり、中に就て一雙の鸚鵡あり、是れは女主人歐洲漫遊の際、佛國巴里より購ひ

歸へりたる稀代の名禽なるが、紐育を経て智利國に携へ歸るまで、是の一小禽の爲めに要せし費用、實に五百磅(五千萬圓)に上ぼりしとは、實説なり、借ても果報ひみじく生れ出でたる後家殿かな

(一一〇) 日本女子と買ひ物

物品を賣るものゝ損得を委細構はず、無暗無法に根切りて安價に買はんとするは日本人、殊に日本婦人なり、是は商買する者の利害を念頭に置かず、自分のみの勝手を考へたる公德心の欠乏より來りたる弊風にして、英米佛獨の婦人には甚だ稀れなる惡風習なりと、嘆息せる某紳士ありたり

(一一一) 米國の禿頭俱樂部

日本女子と買ひ物

米國の禿頭俱樂部

倫敦女子の游泳 埃及の女子教育

百二

米國クレヴランド市の劇場スタア座の持主ラング、ツリユウ氏は、市内有名のはげ頭なるが、此程同人の發起にて禿頭俱樂部なるものを設けたり、其會員は悉く無髮の紳士淑女に限るとに定め、毎月一回會員の集會を催ふす豫定なりと云ふ

(二二三) 倫敦女子の游泳

歐米文明國婦人にして尤も盛に游泳を爲すは倫敦女子なり、取り分け本年は各女學校生徒にして水練場に赴き盛むに誓古を勵みたるもの夥しかりしと、流石に海國自慢の場所柄丈けの事あり

(二二三) 埃及の女子教育

埃及に於ける女子教育の現況は逐年盛大に赴き、最近二年間に於て

女學生の數一倍を増加せり、千九百年には官立學校の女學生二千〇五十人なりしに、千九百二年に至りて四千二百十三人に達せり、又た亞米利加傳道師等が組織せる學校には、小學校をも總計すれば一萬三千人の生徒あり、其内女子三千五百人あり、是等生徒の多數は無論埃及人なれども、其中に殆むと六百人の回々教の子弟ありと云ふ

(二二四) 米國の下女同盟會

ヂヤスチン、ピールと呼べる米國の一婦人は、夙とに婦人問題に心を注ぎ、躬親から奥女中、仲働き、下女、子守り、お針等有ゆる下女役を實驗したる結果、下女待遇の極めて冷酷にして、其宜ろしきを得ざるを嘆とり、一昨年率先して下女同盟會なるものを組織し、

米國の下女同盟會

百三

ルーマニアの下女 伊國少女雜誌記者を訴ふ 百四
盛むに下女待遇の改良すべきを唱へたるに、今や社會の上層下層を
通して風靡の有様なりと

(二二五) ルーマニアの下女

ルーマニアにては下女下男が主人の怒に觸れたるときには、謝罪の
ため自身の靴を主人の寢間の戸口に置く習慣あり、此場合に主人尙
ほ下婢下男を扱ふすべからずと思へば、其靴を蹴飛ばし、又た扱ふ
すも差支えなしと思へば、其靴を已れの足の傍らに置かしむと云ふ

(二二六) 伊國少女雜誌記者を訴ふ

伊太利國人の訴訟好きなるは世界に有名の事實なるが、是の少女も
亦た其一人なるべし、ヘレンマツケチニーと稱する伊太利の一少女

は此程倫敦發行のプラツクウード雜誌記者を相手取り五千圓の損害
賠償の要求を提起したるが、要求の理由はヘレンを無耻なる女なり
と記載せしにありと云ふ、而して裁判の結果原告の勝利に歸し、同
雜誌編輯人は一千圓の賠償を支拂ひ、訴訟費用を負担すべしとの宣
告を受けたり、今又同雜誌に出でたる記事を見るに、ファイフ坑夫
の生活と題し多くの見知らぬ男女の面前に於て、其少女が裸體の儘
寢床に入りたりとの事を記したるに過ぎず云々とは、一英國新聞の
報道なり

(二二七) 日本に於ける女醫の開祖

我國に於て女醫の開業は本多ドクトルの妻女せん子なり、同人は初
め高木、實吉の諸氏に従ひて修業し、後慈惠醫院に於て實地研究

巴里大博覽會は縁結びの神
百六
の功を積み、卒業後同院助手の任を托され、最も婦人科小兒科に妙を得たり、其後明治二十五年十月頃より赤阪新町三丁目に出診所を設け、廣く患者の治療に従事したり、同人は本邦女醫の開山なり

(二二八) 巴里大博覽會は縁結びの神

先年巴里大博覽會開會中互ひに見染め見染められて結婚を約し、又は申込し者少からず、已でに之れが爲め十五組の新夫婦を見るに至れり、中にも米國商會に雇はれて出場したる少女の一群は、最も浮かれ男子の注目を惹きしが、其中の最尤物なるロツス、メリー嬢の如きは、十四個國の男子より百十七通の結婚請求書を受けたりと、去れば巴里大博覽會は若き男女の縁を結びたる神なりと云ふも不可なし

(二二九) 歐洲横肥り婦人の食物

歐洲諸國の婦人中、獨逸和蘭邊の下層婦人には随分横肥りの婦人多く、腰圍七尺長之れに副ふ位いは格別珍らしからず、或る醫師の説に獨逸和蘭等の下等社會の食物は、他の文明人に比して比較的粗末なるが故に、其味を添ゆる爲め、多量のバターを用ゆる爲め、身體の脂肪分を増し斯くは肥大になるならんとの事なり

(二三〇) 瑞典の女子選舉權

瑞典のストックホルム市に於ては、女子の選舉權を得んが爲め、婦人連の運動を開始したり、同市に於ける女子選舉權協會員の數は約一千人に達すべく、ゴッテンブルグにすら近々の内に五百の會員を

歐洲横肥り婦人の食物

瑞典の女子選舉權

風變はりの裝飾は一命に關す
生じたり、殊に本年の始めより其協會に加盟するもの甚だ多しと云ふ、而して同國男子政治家にして同協會の主張に賛成の意を表するもの少からず、蓋し同協會の主張は恐らくは近き將來の中に貫徹せらるゝに至らんと云ふ、又た同會員は体育に意を注ぐと甚だ到れる由

(一三二) 風變はりの粧飾は一命に關す

近頃の出來事なりき、伯林にて一人の若き婦人は、狐の毛皮にて其端に狐の頭の附きたる儘の頸巻を付けて市中を通行したるに、一匹の犬突然飛び付き狐の頭を噛へて引摺り行き、婦人は危く一命を失ふ所なりしを、通行の人に助けられて漸く難を免れたりと云ふ、右に就き同國の新聞は身體に異様の裝飾を爲すは大に慎むべきとなり、

之れが爲め一命を失ひたる者、若しくは失はんとしたる者頗る多しと云ひ、一二の例を挙げて曰く鳥もて飾りたる帽子を戴きたる婦人にて、獵者の爲め眞の鳥と誤まられて射撃されたるものあり、又は人造雜草もて飾りたる帽子を戴きて馬に噛まれたるものもありと

(一三三) 米國男女の高齡者

米國最近の人口調査に依れば、同國には九十歳以上の老男女三万三千七百六十二人あり、其内の最高齡者は百五十歳なる黒人の老婆なり、又此内百三十歳以上のもの九人、百二十歳以上のもの男二十八人、女五十八人、合計八十六人にして、百十五歳以上のものは男女合計百三十人、其内一名の米國土民を除くの外は悉く黒人なり、黒人に次ぎて長命なるは愛蘭人にて、又た白人中の最高齡者は百三十

米國男女の高齡者

亭主の髻を引りて離縁 婦人の髪長六呎
六歳の露國人なりしと云ふ

(一三三) 亭主の髻を引張りて離縁

先頃米國ミネソタ州ミニポリス市に其妻を被告として離婚の訴訟を提起したるものあり、其申し立てに依れば、此者の妻は一種の悪癖ありて少しにて自己の氣に入らぬとあれば、其都度亭主の髻を引張るとにて、亭主も之れには殆んど閉口し、斯くは終に離婚の訴訟を起すに至りしものなるが、裁判所は審理の末、男の申し立てを至當と認め、直ちに離婚認可の判決を與へたりと

(一三四) 婦人の髪長六呎

或る理髮新聞の記載する所に依れば、髪の丈六呎を有する一婦人

懸賞金を得たり、此く長き髪は未曾有の事にて頗る珍らしと云ふべし、尤も赤き黄金色の長髪九呎なるを有し、三呎程地上に引摺る婦人ありしが、此は亦た法外のことと云ふべし

(一三五) 布哇土人女子の舞踏

布哇土人女子の舞踏は重にもフラフラと云へるものなり、此舞踏は頗る猥褻のものにて、我國の藝妓などが主客亂酔杯盤狼籍の時折々催ふす尻振り踊りと同しく、先づ其打扮は踊子には妙齡の美女を選び、三人、五人或は七人並列して舞ふもあり、輪行して舞ふもあり、孰れも頭髪を兩肩に垂れ、額には玫瑰花或は種々の花を綴りて作られる輪を冠ひり、首にはアロハと稱して花を三四に連ねたる花繩を輪にして懸くると、恰も法華信者の大珠數を懸けたるに似たり、衣

は中形更紗の華やかなる品にて、腰には堅く帯を結びたり、而して歌を唱ふるものは孰れも美音なる男子大抵三名許にて洋服下に用ゆる白襦衣を着け、襟には美麗なる襟紐を結び、樂器は殆むと人間の胴腹程もある大瓢を用ひ、其舞蹈の始まらんとするとき、各大瓢一箇宛を持出で、觀客に一禮して木魚の如く右の瓢もて歌の拍子を取りつゝ唱ふるなり、同時に伴の婦女は前陳の打扮にて登場し、左手を以て腰部の帯を押へ、右手を張りて手首の表裏を見る様をなし、次さに右手を以て腰部の帯を押へ、左手を張りて表裏を見ると前の如く、其左右の手を張る毎に、一步宛奇妙に動かしながら歩を進む、斯くする毎に歌の句切れに至れば、暫時歌を止め、次きの句を發するまでは、踊子は歩を進むるとなく正立し、兩手を以て緊かど腰部の帯を左右より押へ、只だ腰を前後左右に動かすのみ、又た歌ひ始

むれば左右の手を代るく伸へて歩みつゝ踊る、而して其前後左右に腰を動かす様如何にも猥褻の趣きありて、見苦るし、然れども此舞蹈は布哇に在ては頗る重せらるゝ由にて、時々宮城に於て興行し、又た外賓を招待饗應の時なども、此踊を催ふして餘興となすとありとぞ

(一三六) 金満家の娘泥棒病氣

米國メイン州第一の金満家の娘エメリヤ、ミルグと云へる妙齡の美人は、何不足なき身分なるに、前世の因果にや、持つて生れたる盗み心已み難く、是れまで幾度か家を逃げ出し、他人の家に下女奉公に住み込み、其家財を掠めては逃げ歸へると度々なりしかは、兩親も涙を揮ふて勘當を申し渡したり、元來此娘は顔形の美はしきのみ

歐米人夫婦の歩行

ならず、性質惻怛にして天晴れの令嬢なるに、持病の盗心の爲め、今は窃盗罪に問はれて獄中に繋がれ居れり、而して此嬢は盗みするとの不義なるとは飽迄で承知し、賊を働きては二三日間前非を悔て泣き悲しめども、程經ては又た病氣起りて罪を犯すと云ふ、憐むべき不具者かな

(一三七) 歐米人夫婦の歩行

西洋諸國に於て夫婦相共にも歩行するとき、婦人は其良人に引かれて歩むが如し、然れども是は引かれて歩むにあらずして、男の腕に女の腕を入れて共にも勇々しく歩むなり、日本婦人の如きは如何にハイカラを氣取るも、彼等の不活潑なる氣風體質にては、到底夫婦相並むで歩行する能はざるなり、日本婦人體育の必要は一日も忽が

せにすべからず

(一三八) 四十五歳以上の婦人結婚禁止法案

米國ミネソタ州々會議員ナルトン氏は、一昨年の州會に年齢四十五歳以上の婦人の結婚禁止法案を提出したるに、婦人社會に少からざる恐慌を惹き起したり、初め此法案の提出さるや、世人は之れを以て一笑にも値せざる議論と見做せしが、案外にも議員及び醫師の賛成する所となり、今や婦人社會は同案の通過せんとを恐るゝ程なるよし、扱て其法案提出の趣意如何と云ふに、年齢四十五歳以上の婦人は最早結婚すべき正當の理由なく、又た其の生みたる子は概して身體虚弱にして、且つ種々の罪惡に感染し易しと云ふにあり、我邦の所謂茶飲友達なる者も此報を聞かば餘所事とは思はざるべし

四十五歳以上の婦人結婚禁止法案

(二三九) 未婚女子の男子生捕會

白耳義の片田舎にエコーシーヌと呼ぶ一村あり、同所は如何なる譯にや女子多く男子少きが故に、女子は何か一工夫せぬと一生涯娘にて終らざるべからず、其處で近頃一大宴會を催ふし、遠近の未婚男子を招待して各々男を生捕るべしと相談一決し、先づ親達の承諾を得て何月何日某處に開會すべく決定の上、國內は勿論和蘭迄も廣告したり、扱同村にては一週間前より村内に美々しく裝飾を施し場所の真中にテーブルを据へ附け、主人役たる娘達は今日を晴れと着飾り、腕に撚を掛けて男子を待ち受け、午後三時頃より親達に伴はれ、未婚男子たる客と共に村役場に會合して結婚に關する數番の演説ありて後ち、當日の趣向たる宴會となりたり、而して娘達は先づテ

ーブルに就き、傍に男子の着席すべき程の席を置き、其の着席を待ち居たり、暫らくして男子一同來りたれど、誰れ一人として着席するものなかりしが、其内一人四十歳位の男先つ一番に進みて娘の傍に着席したるに、夫れより他の男我れも我れも娘の隣りに坐を占め、而して一同杯を舉げて謠ひつ、舞ひつ、夕暮に及び一同歡を盡くして散會したり、之れより互に知己となりて心情を打ち明け合ひ、約束も出來、中には是れ見よがしに手を執りて村中を散歩するものもあり、更らに一同野原の中にて舞踏會を催ふしたるが、此時既に結婚日の定まれる者多かりしと云ふ

(一四〇) 警視廳管内の女工數

警視廳の最近調査に依れば同管内に於ける私設の大小各工場に使傭

米國婦人皮膚に寫眞す
百十八
せる男女職工の概數は三萬九千二百八十九人にして、動力を使用する該職工數は男一萬八千四百五人、女子一萬五千七百七十人、又た動力を使用せざる工場該職工は男三千三百四十六人、女子千七百六十人等なりと云ふ、婦人の勢力も亦た勞働界に多大なりと云ふべし

(一四二) 米國婦人皮膚に寫眞す

米國の婦人にて良人の肖像を腕に文身したるものあり、此の風一時同國婦人間に流行せしが、中には文身するを好まず、他に之れに類する簡便なる方法に依りて同様なる裝飾を爲さんと望むものあり、遂に一寫眞師の工夫に依りて腕或は胸に情人の影を撮ること行はるゝに至り、目下大に流行して皮膚に寫眞を有する米國婦人多しと

(一四三) 大口の女

三人の男子一人の口の筥棒に大きな婦人と或る地方を旅行し、路傍のビールヤホールに入りてビールを飲み始めたるに、一人の男二人の男に向ひ君等は何程の酒量を飲み得るやと尋ねたり、二人は一パイント(約三合)を飲み得べしと答へぬ、更らに彼の大口なる女に何程を飲み得るやと問ひしに、婦人は答へて左ればなり一パイント位は一口に飲み乾さん、三人の男子大に驚いて云はく、开は大變貴女の一口とは何パイントなるやと、婦人曰はく未だ何パイントなるを知らずと三人聽みて呆然

(一四三) 即座に約を整へて結婚す

大口の女 即座に約を整へて結婚す

泰西にて男女結婚せんとするときは、コートシップと稱して、短かきも数ヶ月、長きは四五年間互に往來し、其性質行爲の意に適ふや否やを確かめて、後始めて結婚する風習なるか、茲に一日に成立したる結婚あり、一昨年八月廿二日の事なりき、米國ニュージャージーに於て結婚したる男女のコートシップの短かくりし事は、西洋に殆むど其例を見ざる程なり、男はシンシナテイのヒルバーと云ふ人にて、フヒーフアルフイヤの南部協會より委員としてニュージャージーに來る途中、汽車の中にてクレツプスと云へる婦人に邂逅し、其時婚儀を約し其日の晩登に結婚の式を挙げたりと

(一四五) 健忘性の女子

夫の姓名を失念したる婦人の事は前にも記るせしが、是れは又た日

本にて申さば天狗に攫はれたるものでも云ふべきが、倫敦新聞の報に據れば、同地の近郊ニユークロッスに家屋裝飾の業を營み居るもの娘にて、本年十六歳の少女は、朝飯後自転車に乗りて家を出てたる儘歸り來ず、其後タンプリツシウエルス附近を飄泊居たるを發見せられたるに、如何になしけん全く記憶力を失ひ、自身の住所姓名を告ぐる能はず、母に逢ふても其誰なるかを知らざりし由なり、健康には何の異状なく、自転車より落ちて腦を打ちたる形跡もなし、今は家に在りて両親の言葉を了解し、其親切を認むるも、自身は全く他人なりと(考へ居れりと云)

(一四六) 郵税免除の米國婦人

米國には政府より特に郵税を免除せられて何人にも郵便切手を貼用

高山に登ぼるを好む處女

百二十二

せずして郵書を發し得る婦人二名あり、ガーフイルド夫人及びグラント夫人にして、共に大統領たりしとある人の未亡人なり、故に特別の恩典として郵便切手貼用を免除されたるなり

(一四七) 高山に登ぼるを好む處女

お轉婆の多き米國に於ては奔流を遡ぼり、高山に登ぼるを好む婦人少からず、同國ポストン師のベック嬢は、危険を冒かして高峰峻嶺に登ぼるの癖あり、曾つて一日の内にホソイト山中の大統領山脈の九峯を攀ち登ぼり、又た墨西哥の高山ポボカテペトルの頂上に達したるともあり、又た一昨年夏は歐州に航して瑞西に到り、ユングフロー山の最高峯に攀ち上ぼり、下界を下瞰したるとあり、而して何處に面白味ありやと問ふ人あれば、嬢は答へて嶄巖危峯の中途に壁

の蠅の如く躰を止めて、下界を眼下に見をろすは一番の愉快なりと云へりと

(一四八) 女囚の手足は大なり

過般來有名なる罪囚學者ロムズグー氏多數の罪囚を調査したる結果女囚人の左手は必ず右手より大なりと、是は囚人右方の腦過度の發達を爲すに原因すと云へば、女囚手足の發達も是等より起因するものなるべしと云ふ

(一四九) 英國に於ける妻の賣買

文明國民を以て自任する英國に於て妻の賣買は、古來珍とするに足らずとは沙汰の限りと云ふべし、同國の一新聞は曰く妻の賣買を公

女囚の手足は大なり

英國に於ける妻の賣買

百二十三

世 界 の 婦 人

然世に廣告したるは、今より百十年前の三月シエツフィールドの人が自己の妻を六片(我二十五錢)にて賣渡すべしと、タイムス新聞紙上に廣告せしを嚆矢とす、其後數年を経て同新聞にスミスフィールドにては、妻女の相場騰貴して半ギニー(五圓)のもの三ギニー半(十八圓)となりたりとの記事ありき、又た數年の後シエツフィールドの家畜市場へ妻に綱を付けて賣物に出したるものあり是れより五十二年を経て同様妻を家畜市場に伴ひて賣渡に附し、十八片(七十五錢)とビール一クオート(六合)にて賣渡したるものあり、夫れより三十年過ぎてアルフレトンの一坑夫は、四片(二十錢)にて妻を賣りたるとあり、爾來近年に至るまで其例尠からず、近きは今より十年前にシエツフィールドにて三十志(十五圓)にて妻を賣りたるものは、實に「余は余の妻エリザベスを同人の承諾により、貴殿に賣渡申候、依りて貴殿は今後

世 界 の 婦 人

同人を貴殿の妻として永久所有する権利を得たるものなり、後日の爲め之れを證明す」と云へる證書を興へたり、其翌年リーズに、重婚罪の爲め起訴せられたるものは、法廷に於て辯明して曰はく「私の妻は先頃三志六片にて賣り渡しましたから重婚にはなりません」と述べたり、現に今日にても世間に知られずして妻を賣り物にするもの少からず、其原因は往時の如く賭博の結果に出る者多しと記せり

一五〇 佛國の舞踏と博奕

舞踏は何れの國に於ても盛むに行はるれど、佛國は又た特別にして博奕も其もに大流行なり、而して舞踏博奕の兩者は佛國に於ては社界の上層下層を通して行はれ、就中舞踏を知らざるものは實際上必須の技能を欠くものとして擯斥さるゝ様、恰も我國の宴會席上に於

汽車の危険を防ぐ一婦人の名案
て只た一人酒を飲まざる者の如しと云ふ

(一五一) 瀛車の危険を防ぐ一婦人の名案

米國の或る地方にて貨物列車に變事ありたるが、幸に損害は貨物にのみ止まりたり、其後或る朝同所を通行する列車の三等室内に近傍の市場に赴く田舎者多く乗り居たるが、談話は自然と變災の事に及び、其場所を無事に通過するや、就れも密かに安堵の思ひをなしかる、然るに最初より平氣にて菓子を食し居たる乗客の一人は、其婦人に向ひ御身は瀛車の危険を恐れ給はずやと問ひたるに、婦人は豫ねての用意あれば恐るゝ所なしと答へたり、更らに其用意とは如何にと尋ねしに婦人は「妾は此所に鶏卵三百個を持って居ります、瀛車の衝突で破られてはなりません故に、先刻車掌に此内六個を遣り

ましたと説明したり人々其意を曉るを得ず、重ねて其仔細を問ひたるに、婦人は更らに語を續けて「車掌が其貰つた王子を破るまいと思ふて氣を附けて居る間は妾の玉子は安全です」と答へたるには居合はせし乗客一同呆然たりしと云ふ

世界 の 婦 人 終

明治三十六年十二月二十六日印刷
明治三十七年一月一日發行

郵稅金四錢
定價金貳拾錢

編纂者 小林 秋子

東京市本所區本所向島押上町二十一番地

發行者 石尾 信太郎

東京市芝區西久保巴町五十三番地

印刷者 長谷川 清

東京市京橋區三十間堀二丁目一番地

印刷所 明 教 社

東京市京橋區三十間堀二丁目一番地

電話新橋千五百四十一番

附 奧 人 婦 の 界 世



不許
複製

發賣元

東京市芝區西久保巴町五十三番地

現代社書房

97
138

Ⓜ

003933-000-6

97-138

世界の婦人

桜東女史/編

M37

ACE-0156



